山形大学人文社会科学部研究年報　第15号（2018. 3）1－57

平成28年度研究・教育活動報告

アーウィン　マーク

研究成果（著書）

Sequential Voicing in Japanese, Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins

研究成果（論文）

The Rendaku Database （Sequential Voicing in Japanese, ed. Vance, Timothy & Irwin, Mark. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins pp. 79-106）

Rosen's Rule（Sequential Voicing in Japanese, ed. Vance, Timothy & Irwin, Mark. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins pp. 107-117）

A Rendaku Bibliography（Sequential Voicing in Japanese, ed. Vance, Timothy & Irwin, Mark. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins pp. 235-249）

Rendaku in Tōhoku Japanese: The Kahoku-chō Survey（Sequential Voicing in Japanese, ed. Vance, Timothy & Irwin, Mark. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins pp. 173-193）

Rendaku Awareness of Japanese Language Learners in Taiwan: Students at Ming Chuan University（Sequential Voicing in Japanese, ed. Vance, Timothy & Irwin, Mark. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins pp. 57-77）

研究成果（学会発表）

Les composés apophoniques en japonais, XXIXe Journées de Linguistique d'Asie Orientale, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Paris

Rendaku and Labial Lenition, 2nd European Association of Japanese Studies Japan Conference, Kōbe University

The Resistance of Moraic Nasals to Rendaku Inhibitors, 12th Phonology Festa, Ritsumeikan University, Kyoto

相沢　直樹

研究成果（論文）

「ゴンドラの唄」の魔力，『短歌研究』2016年11月号，短歌研究社，80-86頁。

教育・地域連携等の活動

@授業等

（前期）ロシア語Ⅰ（３），ロシア語学演習，文化交流史，特別研究＋修論指導

（後期）ロシア語Ⅱ（３），ロシア語購読，文学概論，ロシア文化論，特別研究＋修論指導

@社会活動

芸術座創立百年委員会主催イベント「神楽坂の藝術座，藝術座の神楽坂」（第Ⅰ部：平成28年７月23日，第Ⅱ部：10月１日）全体の運営に関わる。また，第Ⅱ部のシンポジウム「芸術倶楽部とは?」（10月１日，牛込簞笥区民ホール）にはパネリストとしても参加。

赤倉　泉

教育・地域連携等の活動

【担当授業】学部：アジア政治論，アジア政治論演習，基礎演習，総合講座Ⅰ（１回） 基盤：中国語Ⅰ，中国語Ⅱ　大学院：現代中国政治特論

出張講義：福島県立安積黎明高校

阿部　晃士

研究成果（学会発表）

- 阿部晃士・堀篭義裕・茅野恒秀・金澤悠介・平井勇介，2016年10月，「津波被災地における震災５年後までの意識変化：岩手県大船渡市におけるパネル調査から」第89回日本社会学会大会
- 平井勇介・堀篭義裕・阿部晃士・茅野恒秀・金澤悠介，2017年３月，「東日本大震災復旧・復興過程で生じる地域社会の軋轢：津波被災者と地震被災者の隔たり」第３回東日本大震災研究交流会

研究成果（その他）

- 阿部晃士・堀篭義裕・茅野恒秀・金澤悠介・平井勇介，2016年９月，『復興に関する大船渡市民の意識調査：第３回パネル調査報告書』岩手県立大学総合政策学部震災復興研究会社会調査チーム
- 阿部晃士，2017年３月，「国道347号の利用と通年通行の認知：観光客の調査から」山形大学人文学部附属やまがた地域社会研究所『国道347号通年通行による地域活性化効果の調査研究：尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会委託事業成果報告書』
- 阿部晃士，2017年３月，「仙台市における廃棄物行政の現状と経緯」生活環境研究会『暮らしと生活環境にかんする調査報告書』
- 阿部晃士，2017年３月，「ごみ処理の有料化は受け入れられたか」生活環境研究会『暮らしと生活環境にかんする調査報告書』

教育・地域連携等の活動

（担当授業）

- 現代社会学演習，社会調査実習，社会学概論，調査方法論，卒業論文（16名：社会学正指導10名，心理学正指導６名），基礎講義（地域・人間），人間文化入門総合講義，意識調査から見る現代社会（基盤，社会学）（以上，山形大学）
- 調査の方法（山形大学大学院）
- 社会学（米沢栄養大学）
- 社会統計学（新潟大学人文学部）

（地域連携）

- 山形県統計専門研修（2016年９月）
- 山形県統計協会統計インストラクター（2016年10月）

研究・教育活動に関するコメント

研究活動では，（１）大船渡市における震災復興に関する調査の分析と追跡調査の実施（科研費分担者），（２）仙台市における環境意識に関する調査の分析（科研費分担者），（３）社会調査

のエキスパートを対象とする調査手法についてのインタビュー調査（科研費・基盤（c），代表者），（４）2015年に刊行した社会統計学のテキストの続編執筆（2017年度刊行予定）などを並行して行った。一方，他領域も含め16名の卒論指導をおこなうなど，教育面の負担がいっそう重くなった。

天野　尚樹

研究成果（著書）

原暉之・天野尚樹編『樺太40年の歴史』全国樺太連盟，2017年。

研究成果（論文）

Амано Н. Асимметричные переговоры как видится из Японии переговоры по детальному соглашению о Северном Сахалине // Аболтин В.Я. Остров сокровищ Северный Сахалин. Сборник документов и материалов. Москва Буки Веди, 2016. С. 34–46.

研究成果（学会発表）

天野尚樹「上陸地・中継地・発出地：北海道・サハリン関係のなかの稚内」（アジア政経学会2016年度秋季大会，2016年11月19日，北九州国際会議場）。

AMANO Naoki, “Korean Networks in the Russian Far East: Openness, Accessibility and Adaptiveness,” International Symposium “There Goes the Neighborhood: Increasing Tensions in Cooperative Northeast Asia,” December 18, 2016 at Kitakyushu International Conference Center.

教育・地域連携等の活動

【担当授業】

基盤教育科目：ロシア語 I，ロシア語 II

専門教育科目：極東地域論，ロシア語講読，時事ロシア語

大学院：北東アジア文化論特論 I，北東アジア文化論特別演習

【出張講義】

山形県立山形西高等学校（2016年７月21日），青森県立青森南高等学校（2016年９月16日）

【高校訪問】

青森県立青森南高等学校（2016年８月２日），青森県立田名部高等学校（2016年８月２日），青森県立青森西高等学校（2016年９月15日）

研究・教育活動に関するコメント

研究においては，５年がかりの共著書の出版，ロシア人研究者との共同研究の成果に加え，日露関係の現状やコリアン移民など新たなテーマについても成果を出すことができた。

教育においては，注目を浴びた日露間の領土問題について学生とともに考えることができた。また，学生のロシア語基礎力の向上につとめた。

荒井　太郎

教育・地域連携等の活動

【担当授業】

基盤：スタートアップセミナー（前期），企業活動の法律（前期），企業法務の入門（後期）

専門：国際取引法（後期），国際取引法演習（通期）

【地域連携】
出張講義：山形中央高校（国際ビジネスと法律）
きらやかマネジメントスクール：経営と法律
研究・教育活動に関するコメント
　来年度は，リーガルマインドとビジネスセンスを併せ持ったグローバル人材の育成に努めたい。

新宮　学

研究成果（著書）
『明清都市商業史の研究』全448頁，汲古書院，2017年３月
研究成果（論文）
「洪武都城，南京的景勝――《洪武京城図志》解読」『“六朝歴史与南京記憶”国際学術研討会論文集』24-42頁，中国・南京暁庄学院，2017年３月
「明清都市商業史研究の新動向」『東アジア外交関係と文化交流』韓国，中国史学会第91回学術発表会予稿集，40-49頁，2016年12月
研究成果（学会発表）
「明清都市商業史研究の新動向」韓国，中国史学会第91回学術発表会（明清史学会との共催），2016年12月10日（仁川，仁荷大学校）
「洪武都城，南京的景勝――《洪武京城図志》解読」中国，江蘇省六朝史研究会・南京暁庄学院主催，“六朝歴史与南京記憶”国際学術研討会，南京，2017年３月12日　“絲綢之道研究与歴史地理信息系統建設”国際学術研討会（西安市・陝西師範大学）
研究成果（その他）
講演要旨：「明朝による豊臣秀吉の日本国王冊封の顛末―上杉神社所蔵の「兵部箚」と冠服を手がかりにして―『国士館東洋史学』７・８・９合併号，21-28頁，2016年８月
教育・地域連携等の活動
・当該年度における担当授業等
〔学部〕アジア史概論，アジア史講義（一），アジア史演習（一），アジア史史料講読（一），近現代東アジア地域論（一），中国の歴史（歴史学），マルコ・ポーロ『東方見聞録』を読む（教養セミナー），博物館実習
・研究室訪問：大学で学ぶ「新しい世界史」 2016年11月７日　山形県立山形東高校「山東探究塾」
・教職免許状講習（高校地歴・中学社会）：「東アジアからみた世界史」2016年８月３日
研究・教育活動に関するコメント
・研究面では，学部の出版助成を受けて明清都市商業史に関する研究をまとめた論文集を刊行することができた。また５月28,29日の両日にわたり，実行委員長として中国学関係教員の協力を得て第65回東北中国学会大会を本学で開催した。
・学生の教育では，２名の学生の卒論指導（副）を担当した。学内行政では，リニューアルしたばかりの附属博物館長として博物館の管理運営に携わった。

池田　弘乃

研究成果（学会発表）

「ケアへの敬意　―倫理から制度へ」（日本法哲学会2016年度学術大会統一テーマ報告，2016年11月13日，立教大学）

Global justice and migrant care workers: a philosophical sketch of current Japanese immigration policy, Joint Research Forum on Migration, March 16, 2017, University of San Carlos.

教育・地域連携等の活動

［担当科目］（専門）「私法入門」，「法哲学」，「法哲学演習」，総合講座Ⅱ（オムニバス），公務員対策セミナー（論作文）。（基盤）「『ジェンダーと法』入門（法学）」，「男女共同参画社会を考える（教養セミナー）」。

［地域連携等］

講演「アセクシュアルと法」（NPO 法人レインボーアクション, 2016年６月５日），「法の中のジェンダーを探る」（山形市男女共同参画センター・ファーラ，2016年９月６日）。出張講義「法の中の子どもと大人」（山形北高等学校, 2016年６月16日）。高校訪問（２校）。取材協力（山形新聞「特集　生きやすさ求めて　―県内の LGBT」，2017年１月11日）。審議会（山形県医療審議会，2016〔H28〕10月１日より）。

研究・教育活動に関するコメント

今年度中に執筆を進めた（或いは脱稿した）諸論考を次年度以降順次発表する予定である。

池田　光則

教育・地域連携等の活動

(a) 担当授業

- 学部専門教育科目：言語学概論，言語学特殊講義，ラテン語 I，II
- 基盤教育科目：言語学概論（言語学），言語学とその周辺領域（言語学），英語
- 大学院：言語学特論，言語学特別演習

(b) 卒業論文指導テーマ

- ニュース番組における引用の「～とする」

(c) 出張講義等

- 岩手県立不来方高等学校（2016年５月23日）
- 國學院大學栃木高等学校（2016年６月18日）
- 山形県立新庄北高等学校（2016年10月21日）
- 山形県立新庄北高等学校研究室訪問（2016年７月27日）

石澤　靖典

研究成果（著書）

（編著）『成果報告書 没後100年記念 菊池新学シンポジウム ― 東北初の写真家，菊池新学と山形の写真文化』石澤靖典編，山形大学人文学部附属映像文化研究所，2017年（担当箇所：「菊池新学の功績と研究の現状」，５－８頁）

研究成果（論文）

（書評）「金山弘昌監修『イメージの探検学 VII 魔術の生成学：ピエロ・ディ・コジモからパラッツォ・ピッティへ』（ありな書房）」『図書新聞』3284号，2016年12月24日，12頁

研究成果（その他）

（コーディネーター）シンポジウム「近代都市の相貌 ― 明治山形の写真・絵画・建築」，山形大学人文学部附属映像文化研究所，2016年10月16日，山形大学人文学部

（パネルディスカッション司会）シンポジウム「20世紀イタリアに入った日本」，山形文化遺産活用事業実行委員会，チェントロ・ポルティコ主催，2017年１月６日，山形美術館

教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

- 学部専門科目：芸術文化概論，美術史演習，芸術文化演習（一），基礎講義（文化解釈学），芸術文化特殊講義，芸術文化演習（二），芸術文化実習
- 大学院科目：美学・芸術史特論 I，美学・芸術史特別演習
- 基盤教育科目：西洋美術の歴史，西洋美術鑑賞入門

〔卒論指導〕

12名担当（ニコラ・プッサン《四季》連作について，ギュスターヴ・モロー≪オルフェウス≫における図像学的特異性，清原雪信の源氏物語主題画に関する考察，ベルニーニ作《聖女テレサの法悦》について，ロマネスク教会におけるセイレーン図像，マルク・シャガール《天使の墜落》に関する考察，速水御舟《翠苔緑芝》について，アンリ・ルソー《第22回アンデパンダン展に参加するよう芸術家たちを導く女神》について，パウル・クレー《蛾の踊り》について，竹内栖鳳による西洋風景画表現について，『デジモンアドベンチャー02』における構造と世界観，ファッション誌の表紙に関する考察）

〔公開講座〕

「ドキュメンタリーとしての写真」，平成28年度山形大学公開講座［人文学部］「映画･写真･絵画･文学におけるドキュメンタリーとフィクション」第１回，2016年６月２日，山形大学人文学部

〔出前講義〕「レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術と科学」，2016年11月２日，宮城県古川高等学校

〔市民講座〕

- 「ヨーロッパ美術にみる聖女と魔女」，2016年９月10日，NHK 文化センター郡山
- 「ラファエロとミケランジェロ ― ヨーロッパ美術の「静」と「動」」，2017年３月11日，NHK 文化センター郡山

〔学外委員〕

山形文化遺産活用事業実行委員会委員

研究・教育活動に関するコメント

研究活動としては，代表を務める科研費基盤研究Ｃの課題（ルネサンス美術研究），および分担者となっている基盤研究Ｂの活動（近代東北写真史研究）を並行して進めたが，成果としては，後者のシンポジウム開催と報告書を編集発行するのみにとどまってしまった点が反省点である。教育面では，例年になく卒論指導を多く担当したため，個々の学生の指導を十分に尽くせなかなかった憾みがあるが，提出された卒論は自説を論理的に展開した力作が多く，学術レベルの向上

を窺わせた。

和泉田　保一

研究成果（著書）

宗像優編『講座臨床政治学第６巻　環境問題と政治』のうちの「第一部　第四章　環境問題と住民参加」（志學社・2016年）133-181頁（共著）

研究成果（学会発表）

最一判平成27年12月14日裁時1642号26頁（東北大学公法判例研究会，７月）

教育・地域連携等の活動

・担当授業

行政法Ⅰ，行政法Ⅱ，行政法演習，総合講座Ⅰ（「条例による地域政策」）・Ⅱ（「行政法」），教養セミナー（「身近な問題と行政法」），人文学部公務員対策講座（集団討論２コマを担当）

・地域連携活動

［審議会等委員］

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県議会情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形大学医学部倫理審査会委員（継続）

山形大学 COI 社会システム研究委員会委員（継続）

山形市行政不服審査会委員（６月 -）

上山市行政不服審査会委員（10月 -）

上山市情報公開・個人情報保護審査会委員（10月 -）

長井市行政不服審査会委員（11月 -）

西置賜行政組合不服審査会委員（11月 -）

［外部研修講師］

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」（７月）

山形市役所職員研修「行政法」（９月）

山形市役所職員研修「政策法務」（２月）

［講演］

平成28年度人文学部公開講座『リスク社会と危機管理』第二回「行政法規によるリスク制御」を担当（９月）

長井市及び西置賜行政組合不服審査会講演「行政不服審査法のポイント」（11月）

［出張講義］

新潟県立新津高等学校（６月）

研究・教育活動に関するコメント

行政不服審査法改正により，県内の幾つかの地方自治体において同審査会が発足し，新たに上記の委員に就任した。

ゼミ合宿を新潟市で実施し，BRT 導入問題について実地見学及び聴き取り調査をした。

約１週間ロンドンを中心に滞在し，次作論文のための調査を行った。また，Brexit にに関する

最高裁判決（いわゆる「ミラー判決」）についてのカンファレンス（於：UCL School of Law）に出席し，その後の懇親会に参加する機会を得た。

伊藤　晶文

研究成果（論文）

伊藤晶文(2017)：ペルー，ナスカ盆地周辺の砂漠レス．山形大学歴史・地理・人類学論集，18，1－５．

研究成果（学会発表）

伊藤晶文・小岩直人（2016）：DEM および SfM 処理による DSM を用いた2011年東北地方太平洋沖地震津波後の海浜地形変化の検討―宮城県気仙沼市赤崎海岸の事例―．2016年５月．2016年度東北地理学会春季学術大会．

小岩直人・高橋未央・大高明史・伊藤晶文・武田　開（2016）：通常の潮汐・波浪条件下で進行する砂嘴形成プロセス―タイ南西部パカラン岬における2004年インド洋大津波後の事例―．2016年９月．2016年日本地理学会秋季学術大会．

伊藤晶文・小岩直人・松本秀明（2016）：2011年東北地方太平洋沖地震津波における宮城県井土浦海岸の地形変化― DEM，SfM-MVS による DSM および深浅測量データを用いた検討―．2016年10月．日本地形学連合2016年秋季大会．

教育・地域連携等の活動

［担当授業］

（前期）環境地理学概論，環境地理学演習，環境地理学調査実習，人間文化入門総合講義（分担），地図を読む（教養セミナー），環境地理学特論Ⅰ

（後期）地圏環境論，地圏環境論演習，基礎講義（地域・人間）（分担），自然地理学（地理学），環境地理学特別演習

［地域連携］

国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員（東北地区）

宮城県環境影響評価技術審査会委員

研究・教育活動に関するコメント

国内および海外（タイ）において，巨大津波による地形変化に関する研究を実施した。ペルーでは，ナスカ台地における地形変化量に関する調査を引き続き実施した。

今村　真央

研究成果（論文）

Masao Imamura. “Slow Anthropology: Negotiating Difference with the Iu Mien by Hjorleifur Jonsson.” Journal of Asian Studies. 75（４）：1164 - 1165

Keita Kurabe and Masao Imamura. “Orthography and Vernacular Media: the Case of Jinghpaw-Kachin.” IIAS The Newsletter（75）

今村真央　「少数民族と天然資源 – ミャンマーでの連邦制をめぐる議論」，『連邦制の逆説？ – 効果的な統治制度か』松尾英哉（編）ナカニシヤ出版　267-272

研究成果（学会発表）

“Religious Networking among Migrants: The Case of the Kachin People from Highland Myanmar,” Joint Research Forum on Migration（University of San Carlos, Cebu：３月16日）

""Visual Documentations of Tribal Traditions: Politics of Representation,"" Talk as a panelist discussant,（Asian Confluence, Shilong, India：２月６日）

「移動・越境・翻訳：宗教研究から見る東南アジア研究の過去10年」東南アジア学会第96回研究大会　550周年記念シンポジウム（慶應義塾大学，東京：12月４日）

“The Rise of the Jinghpaw Vernacular”（with Dr. Keita Kurabe）「少数民族の『多様なやりとり』にみる現在の『ゾミア』地域――異なる政治経済体制下での比較研究」共同研究会発表（山形：10月23日）

「『スケール』という概念について：世界史，帝国，非国家主体」「地域概念の再検討」セッション　北東アジア学会大会（慶應義塾大学，東京：10月９日）

教育・地域連携等の活動

［担当授業］

• 基盤教育：「東南アジアの文化交流史」「声の文化と文字の文化」
• 学部専門科目：国際協力論（前期），東南アジア地域論（後期）

異文化間コミュニケーション実習（ケアンズ，セブ）

講演・発表

2016.「同性婚は世界に広まるか？越境する LGBT 運動の可能性と限界」オープンキャンパス公開講義（山形大学，山形：９月21日）

“Coping with Linguistic Diversity: Cosmopolitanism and Vernacularism in Southeast Asia” Public talk at Humanity Institute（Myitkyina, Myanmar：８月26日）

「東南アジアのサンスクリット文化遺跡をめぐる政治」（山形大学小白川図書館, 山形：２月17日）

研究・教育活動に関するコメント

外部資金

科研費基盤（C）2015年４月 ～ 継続中　""From Frontiers to Boundaries: How was the borderline drawn between British Burma and China（1886-1941）?"" 二年次の計画を遂行した。

研究・教育活動に関するコメント

前年度からすでに予定されていた現地調査に，二回の海外実習（学生引率）も加わり，海外出張が多かった。29年度は（出張を減らして）書く方を優先したい。

岩田　浩太郎

研究成果（論文）

• 「村田商人の歴史的条件（上）－全国市場との関係をふまえて－」（『仙臺郷土研究』復刊第41巻第２号（通巻293号），2016年12月，２～13頁）

研究成果（学会発表）

〔講演・講座〕

• 中山町民講座「地域文化遺産 柏倉家に学ぶ－その歴史と現在－」（主催：中山町教育委員会・

NPO 法人柏倉家文化村，後援：中山町郷土研究会・中山紅花保存会。「山形学」講座）の企画及び講師を担当。全８回・定員30名，於中山町中央公民館・柏倉九左衛門家。2016年６月18日第１回「黒塀の町並み－地域の文化遺産としての柏倉家－」／７月16日第２回「紅花づくりの知恵－紅花まつり2016－」／８月20日第３回「柏倉家系譜の謎－事実検証の足跡－」／９月17日第４回「経営のダイナミズム－江戸から戦後／時代に対応する力－」／11月19日第５回「建物にみる芸術文化－九左衛門屋敷見学－」／12月17日第６回「惣右衛門家のあきない－全国ネットワークと産業支援－」／2017年１月21日第７回「社会活動と地域貢献－救援・教育・インフラ・公共－」／2017年２月18日第８回「癒しの空間・自然と伝統－保存・活用の取り組み－」。各回とも第３土曜日午後１時30分～３時（第２回と第５回のみ午後３時30分まで）。

- 「村田商人の歴史的条件」（平成28年度仙台郷土研究会総会記念講演，2016年６月26日，於仙台市戦災復興記念館５階会議室）
- 「最上紅花の発展条件」（京都手染メ屋及び仙台柏倉家サポート倶楽部に対する講演，2016年７月17日，於柏倉九左衛門家北蔵）

研究成果（その他）

〔外部資金〕

- 科学研究費補助金・基盤研究（C）「近世近代地方商人の経営と地域経済構造－宮城県村田町を事例に－」（研究代表者），研究期間2015年４月～2019年３月。

教育・地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- 基盤教育科目：スタートアップセミナー，基幹科目「歴史にみる共生」（共生を考える）
- 専門教育科目：日本経済史，地域経済史，日本経済史演習，総合講座Ⅲ（オムニバス・１回分）
- 大学院教育科目：日本近世史特論Ⅱ，日本近世史特別演習，歴史文化特別研究Ⅱ

〔委員会活動，その他〕

- 全学：研究活動に関する行動規範委員会委員，研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者，科研費アドバイザー
- 学部：目標評価委員会委員（2016年11月～），学科人事調整委員会委員，高校訪問重点校（仙台第三高等学校）担当，やまがた地域社会研究所所員

〔社会活動〕

- 山形市社会教育委員（副代表。2012年～）
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年４月～）
- NPO 法人柏倉家文化村顧問（2006年～）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～）
- 宮城県村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～）
- 宮城県村田町大沼正七家文書目録整理員（2016年４月～）
- 柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家・柏倉政右衛門家所蔵古文書資料の整理保存及び目録作成・調査依頼への対応
- 山形市の旧家による歴史資料の相談への対応
- 宮城県村田町の旧家からの古文書調査依頼への対応

- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- 長野県小諸市の寺院からの古文書解読依頼への対応
- 山形県農林水産部園芸農業推進課からの日本農業遺産申請相談への対応
- 柏倉九左衛門家おひなまつり2017朗読会「中山町のある朝の様子－明治二十一年四月二日－」脚本（佐藤俊介作）への協力
- 『毎日新聞』2016年４月７日付山形版紙面及びデジタル毎日「柏倉家住宅の研究発表 山大・岩田教授「保全修理必要」」への取材協力
- 「まちの話題 町民講座「史料が語る 村田紅花商人のあゆみ」」（『広報むらた』№516，村田町役場総務課，2016年４月）への取材協力
- 「柏倉家の歴史が冊子に」（『広報なかやま』№740，中山町政策推進課，2016年５月）への取材協力

研究・教育活動に関するコメント

研究及び地域連携活動では，科研費採択も受けて継続している奥州仙台藩領村田商人に関する調査研究の一部につき，宮城県下では老舗の地域研究会である仙台郷土研究会総会に招かれ記念講演をし，その成果を同会誌へ掲載した。同研究で取り上げた村田町の大沼正七家の屋敷（現村田商人やましょう記念館）は2017年２月21付で宮城県指定有形文化財となった（宮城県下では商家としては初めて）。関連して国の重要伝統的建造物群保存地区である村田町「蔵の町並み」の保存活用につき審議会委員として関わった。また，山形学講座の採択も受けて山形県中山町民（一部の他市町民も参加）向けに町民講座（全８回）を企画し講師を務めた。そのテキストに「やまがた社会貢献基金」の採択を受けて昨年度刊行した『柏倉家ものがたり』を活用した。この講座は，柏倉家（本家・分家）の中山町への寄贈（2017年４月）に向けて同家住宅の保存活用の機運と体制づくりを進めるために，柏倉家一類の歴史と同家の保存活用の取り組みに関する町民の理解を深めることをねらいとした講座であった。講座修了後には交流会も開催し，地域のみなさんと今後の保存活用の取り組みについて話し合った。関連して町やマスコミによる取材にも協力した。

教育活動では，３名の大学院生の指導教員（副）として大学院授業を担当し，１名の修士学位論文審査（副）を務めた。学部の日本経済史ゼミでは中山町の岡村文書の調査研究に着手した。

委員会活動は，昨年度全学及び学部の入試委員を務めたことから，本来は今年度研究専念期間となるはずであったが，目標評価委員の任期途中交代があり年度後半に同委員に任命された。学部入試委員会などへもオブザーバーとして出席した。

社会活動では，今年度も山形市社会教育委員や三浦記念賞選考審査会審査員を務め，山形市の生涯教育振興や産業界の顕彰に関わった。また，山形県による日本農業遺産への申請や中山町の歴史を取り上げた朗読劇の脚本づくりに対して知識提供を依頼され協力することができた。

宇津　まり子

研究成果（著書）

（共著）細谷等，中尾信一，村上東編『アメリカ映画のイデオロギー 視覚と娯楽の政治学』（論創社，2016）「『ハッシュパピー～バスタブ島の少女～』－論争が反復した罪」pp.138-163。

研究成果（論文）

（単著）「ケイト・ショパンの黒人表象と『ヴォーグ』—“Désirée’s Baby” と “La Belle Zoraïde”」『山形大学紀要 人文学編（人文科学)』第18巻第４号（2017年２月）pp. 23-38。

研究成果（その他）

（書評）松本昇，高橋勤，君塚淳一編『ジョン・ブラウンの屍を越えて　南北戦争とその時代』（金星堂，2016）『東北アメリカ文学研究』20（2016），63-66。

教育・地域連携等の活動

（出前授業）「トニ・モリスン『青い眼がほしい』について」國學院大學栃木高等学校，2016年６月18日。

（学外委員）米沢市男女共同参画推進委員会（2016年４月～）。

大杉　尚之

研究成果（論文）

- Osugi, T., Takeda, Y., & Murakami, I.（2016）. Brief visual events look briefer at locations suffering inhibition of return. Vision Research, 128, 39-44.
- 中嶋 豊・久方 瑠美・大杉 尚之・細川 研知・丸谷 和史（2016）. 視覚心理実験プログラミングワークショップ」実施報告 Vision, 28, １－４.
- 大杉尚之・小澤良（2016）. 位置変化が視覚探索における累積的抑制効果に及ぼす影響 . 認知心理学研究 .
- Osugi, T., Hayashi, D., & Murakami, I.（2016）. Selection of new objects by onset capture and visual marking. Vision Research, 122, １－４.

研究成果（学会発表）

- 林大輔・岩澤広樹・大杉尚之・村上郁也 運動刺激色への注意が持続時間の知覚に及ぼす影響 日本視覚学会2017冬期大会 , １o01, 東京 ,（2017年１月）.
- Osugi, T. & Kawahara. J. Effects of Head Nodding and Shaking Motions on Perceptions of Likeability and Approachability. Psychnomic Society 57th annual meeting, Boston, Massachsetts, USA,（Nov., 2016）.
- Murakami, I., Terao, M. & Osugi, T. Utility of prior exposure for perceivers, for searchers, and for researchers. International Congress of Psychology（July., 2016）.
- Osugi, T. & Murakami, I. Preview benefit survives ３D rotation if the configuration of old items remains constant. International Congress of Psychology,（July., 2016）.
- Osugi, T., Takeda, Y., & Murakami, I. Brief visual events look briefer at location suffering inhibition of return. Annual meeting of the Vision Science Society 16th Annual meeting, St. Pete Beach, Florida, USA,（May, 2016）.
- 林大輔・寺尾将彦・山上精次・大杉尚之・村上郁也 ひし形の歪み錯視の時間特性に関する検討 日本視覚学会2016冬期大会 , ２p16, 東京 ,（2016年１月）.
- 大杉尚之・武田裕司・村上郁也 復帰の抑制による知覚時間の短縮 . 日本視覚学会2016冬期大会 , １o04, 東京 ,（2016年１月）.

研究成果（その他）

- Osugi, T., Takeda, Y., & Murakami, I.（2016）. Brief visual events look briefer at locations suffering inhibition of return, Journal of Vision, 16, 896.

教育・地域連携等の活動

担当授業

心理学実験（後期）

卒業論文指導

「図形の構成要素が誘目性に与える影響」

「記述的規範と人数が歩行者の信号無視に及ぼす影響」

小笠原　奈菜

研究成果（著書）

『消費者法判例インデックス』（商事法務，2017年３月）（共著）

「未成年の子が利用したダイヤルＱ２有料情報サービスに係る通話料（最判平成13年３月27日）」

「誤情報を信用情報機関に提供したクレジット会社の責任（大阪地裁平成２年７月23日判決）」

研究成果（論文）

「情報提供義務による契約当事者の信頼の保護―損害としての「高値取得」」私法78号160頁－167頁（2016年４月）

研究成果（学会発表）

「EB 債の販売をした証券会社の担当者に金販法３条の説明義務違反があったとされた事例　大阪高裁平成27年12月10日判決（金法2036号94頁，金判1483号25頁）」2016年６月17日　消費者法判例研究会（於　早稲田大学）

「金販法上の説明義務と信義則上の説明義務：大阪高裁平成27年12月10日判決を契機として」2016年７月　東北大民法研究会（於　東北大学）

「外国為替証拠金取引（FX）等のインターネットを通じた金融取引」2016年７月　ネットとうほく消費者被害事例ラボ（於　仙台弁護士会館）

研究成果（その他）

「消費者法情報」現代消費者法31号105-108頁（2016年６月）

「消費者法情報」現代消費者法33号（2017年３月）

教育・地域連携等の活動

［担当授業科目］

- 専門教育科目：契約法入門，民法総則・物権総論，民法演習
  （オムニバス方式）総合講座 II（法律），公務員試験対策セミナー
- 基盤教育科目：生活の中の民法，判例を読もう

［地域連携］

山形県消費生活審議会委員（副委員長）

山形県個人情報保護運営審議会委員

山形県公益認定等審議会委員

消費者市民ネットとうほく検討委員会委員
山形県税理士会主催研究会講師「民法（債権法）改正の現状　―詐害行為取消権を中心として―」2016年９月12日
寒河江高校　大学訪問模擬講義「日常のアクシデントと法律」2016年11月10日
「消費者フォーラム in 酒田」パネリスト　2016年12月９日
研究・教育活動に関するコメント
研究については，口頭報告を３件することができた。著書，論文は昨年度に執筆したものであり，今年度に新たに執筆・公表できなかったことは反省すべき点である。
地域連携について，消費者問題，とりわけ，唯一の空白地帯である東北地方に適格消費者団体を設立する活動を続けるとともに，地域の方々への理解を深めるための講演をすることができた。講演内容は書籍として公表予定である。
教育について，卒論執筆学年の演習担当学生11名を含め全体で24名で演習を行なった。11名の卒論指導をするためにかなりの時間がとられてしまった。平成29年度は13名の卒論を指導するため，工夫が必要である。
講義については，「民法総則・物権総論」を担当したことにより，債権法分野の講義は全て担当したことになる。基盤教育の法律の講義では受講生が160名余りあり，基盤教育における法律科目の選択肢の少なさを痛感した。

小熊　正久

研究成果（論文）
- 「フッサールにおける像意識と想像」――1912年から1918年にかけての思想の進展」（山形大学紀要（人文科学）第18巻第12号，2017年２月）
- 「メルロ＝ポンティにおける「諸感官の関連性」と絵画――『眼と精神』の理解のために」（山形大学人文学部研究年報，第14号，2017年２月）

教育・地域連携等の活動
- 担当授業科目：「人間と世界の関わり」（基盤教育「人間とは何か」），「西洋哲学史」（言語と認識をめぐる哲学史），「哲学講義（二）」（画像と知覚の哲学），「西洋哲学講読」（前・後），「哲学演習（二）」（前・後），「ギリシア語Ⅰ，Ⅱ」，「大学院特論」（メルロ＝ポンティの講義録""La Natur- Cours du Collège de France"" における Animalité の部分の考察）。
- 指導した卒論のテーマ：""「ソクラテス哲学における幸福について」，指導した修論のテーマ：「道徳法則の意識―自惚れの打破としての尊敬」。

研究・教育活動に関するコメント
- 講義，特論，論文指導は充実したことができた。
- 論文二点は，前年度の編著に関連して作成されたものである。これらの主題についてはさらに考察すべきことが存在する。

柿並　良佑

研究成果（著書）

齋藤元紀･増田靖彦（編著）『21世紀の哲学をひらく　現代思想の最前線への招待』ミネルヴァ書房，2016年５月（担当箇所：第一章「哲学と〈政治〉の問い」，３-22頁）。

研究成果（論文）

「非恋愛論―― « Ceci n'est pas un（traité de l'）amour » – de Jean-Luc Nancy」，『人文学報』首都大学東京人文科学研究科・人文学報編集委員会，第513-15号，2017年３月，121-151頁。

研究成果（学会発表）

「「新たな神話」新論――あるいは「途絶」のやり直し」，表象文化論学会，パネル５：神話と共同体――ジャン＝リュック・ナンシーの近著『本来的に語ると――神話についての対談』を中心に」，2016年７月，立命館大学衣笠キャンパス。

「文学を語／騙るのは誰か？――ラクー＝ラバルト＆ナンシーのミメーシス論から」，日本フランス語フランス文学会東北支部大会，シンポジウム「フィクション化する世界」，2016年11月26日，山形大学 小白川キャンパス。

研究成果（その他）

〔翻訳〕フィリップ･ラクー＝ラバルト，ジャン＝リュック･ナンシー「政治的なものの「退引」」，『思想』岩波書店，No.1109，2016年９月号，７-33頁。

「ルソー，〈共〉と〈感覚〉の喪失に抗して」，WEB サイト『プレテクスト　ジャン＝ジャック・ルソー』2016年５月。

教育・地域連携等の活動

模擬講義「異文化を「読む」――フランス語というプリズムを通して」原町高校による大学見学，2016年９月21日。

2016年フランス語教育海外スタージュ修了

Formation pour professeurs et formateurs de FLE，於ブザンソン，2016年８月16日～26日。

『21世紀の哲学をひらく』連続レクチャー第４回「哲学と政治」，株式会社クリックネット銀座セミナールーム，2017年２月20日。

連続トークイベント Serrata 2017登壇：第８日「集団にとって作品とは何か」（×仲山ひふみ・岸井大輔）・第９日「政治と愛――民主主義・エロティシズム・タントリズム」（×熊倉敬聡・岸井大輔），銀座・ラボラトリーキッチン，2017年３月18-19日。

研究・教育活動に関するコメント

　科研費課題・若手研究（B），2015年４月 ～ 継続中，「現代哲学における特異性概念の探究――ナンシー哲学研究から出発して」二年次の計画を遂行。

金子　優子

研究成果（論文）

『特例民法法人の収入金額・年間収入の分析－平成23年特例民法法人概況調査と平成24年経済センサス活動調査の個票を用いて－』，明星大学経済学研究紀要，第48巻第１号，pp. 61-70, 2016年６月

研究成果（学会発表）

『法人類型別（公益法人，社会福祉法人，学校法人，社会医療法人）の収入・付加価値額・従業者数等比較―平成24年経済センサス活動調査の個票を用いて―』，2016年度 統計関連学会連合大会，金沢大学，2016年９月６日，発表名義は金子優子と研究分担者である高橋朋一で，高橋が発表。

『公益法人改革前後の公益法人の活動状況分析－行政記録により作成したパネルデータを用いて－』，2016年度 統計関連学会連合大会，金沢大学，2016年９月６日，発表名義は金子優子と研究分担者である小林健太郎で，小林が発表。

教育・地域連携等の活動

担当科目：

行政学，行政学演習，公共政策とはなにか，日本国憲法，スタートアップセミナー

審議会委員：

東根市情報公開・個人情報審査会委員，村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」（平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究 C 研究課題番号：25380277）における最終年度の研究活動として，

① 平成24年経済センサス活動調査と平成23年特例民法法人概況調査の完全照合データについて，個票データの確認を行ったところ，特例民法法人以外の法人が含まれていることが判明したので，個票データの確認・削除作業を行った。

② 確認作業を行った完全照合データを用いて集計表の作成を行った。

③ 社会福祉法人について名簿データファイルを用いて平成24年経済センサス活動調査の調査票から社会福祉法人の個票を抽出し，集計表を作成した。

④ 平成16年事業所・企業統計調査と平成16年公益法人概況調査の完全照合データと平成24年経済センサス活動調査と平成23年特例民法法人概況調査の完全照合データについて，法人整理番号を用いてパネルデータを作成した。

⑤ このパネルデータを用いた集計表を作成した。

⑥ 2017年９月６日に開催会された統計関連学会研究会において，研究分担者が「法人類型別（公益法人，社会福祉法人，学校法人，社会医療法人）の収入・付加価値額・従業者数等比較―平成24年経済センサス活動調査の個票を用いて―」（金子優子との共著）と題して報告を行った。

⑦ 2017年９月６日に開催会された統計関連学会研究会において，研究分担者が「公益法人改革前後の公益法人の活動状況分析―行政記録により作成したパネルデータを用いて―」（金子優子との共著）と題して報告を行った。

研究・教育活動に関するコメント

教育活動については，プレゼンテーションソフトや映像ソフトを利用することにより視覚に訴えた分かりやすい講義となるように努めた。また，講義においては学生に発言の機会を多く与えて対話型の講義を行うように努め，学生の能動的学習を推進した。

亀井　慶太

研究成果（論文）

"Kenji Fujiwara and Keita Kamei, ""Competition Policy at the Intensive and Extensive Margins in General Equilibrium"", KIER Discussion Paper Series No.954

Kenji Fujiwara and Keita Kamei, ""Trade Liberalization, Division of Labor and Welfare under Oligopoly"", KIER Discussion Paper Series No.949"

研究・教育活動に関するコメント

落ち着いて研究したい。

川村　一義

教育・地域連携等の活動

• 公共政策学

北川　忠明

研究成果（論文）

「連帯都市（ville solidaire）をめぐって」，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，第13号，平成28年９月

教育・地域連携等の活動

教育

「政治と人間」（基盤教育）

「スタートアップセミナー」（基盤教育）

「政治理論」（人文学部）

「政治理論演習」（人文学部）

「政治学入門」（人文学部）

「現代政治論特論」（大学院社会文化システム研究科）

「特別研究」（大学院社会文化システム研究科）

地域連携活動

山形県明るい選挙推進委員会委員

山形県議会定数等検討委員会参考人

長井市振興新議会会長

参議院議員選挙に関するインタビュー数件

無投票に関するインタビュー数件

研究・教育活動に関するコメント

山形大学安達峰一郎研究プロジェクトに関与したこととの関係で，国際連盟外交と日仏関係に関連する研究の糸口をつかめたことが収穫。

許　時嘉

研究成果（著書）

許時嘉・朴澤好美，『籾山衣洲在台日記1898-1904年』，査読有，中央研究院台湾史研究所，pp１-625,2016年。

研究成果（学会発表）

許時嘉,「明治期無用者論的延続與断裂――以成島柳北與籾山衣洲為例」,「文化･文学:歴史與記憶」シンポジウム口頭論文，査読無，大連理工大学（中国・大連市），2016年６月25日。

教育・地域連携等の活動

担当授業：中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，現代中国論，日中交流史演習，比較文化論（共同担当），中国文学講義（共同担当），グローバル文化学基礎講義（共同担当），日本文化概論（共同担当），実践教育プログラム事前学習（中国語）

出張講義：福島県立磐城桜が丘高等学校（平成28年６月28日），福島県立安積高等学校（平成28年11月26日）

高校訪問：福島県立磐城高等学校・福島県立いわき秀英高等学校（平成28年８月４日）

研究・教育活動に関するコメント

科研費課題・若手研究（B）「明治後期の日本外地における漢詩文活動とその思想の実証的研究―籾山衣洲を中心に」（平成26～28年度）が今年度を以て終了し，日記資料集と共著を成果として出版。

清塚　邦彦

研究成果（論文）

（学位論文）

- 「フィクションの哲学：虚構概念の哲学的分析」，東北大学文学研究科博士学位申請論文，2016年８月（同年11月学位授与）。

（書評）

- 「ケンダル・ウォルトン（田村均訳）『フィクションとは何か：ごっこ遊びと芸術』（名古屋大学出版会）」，『図書新聞』3281号，2016年12月３日，６頁

研究成果（その他）

日本科学哲学会　評議員

学会誌査読委員（日本哲学会１件，応用哲学会１件，科学哲学会２件）

日本学術振興会，特別研究員等審査会専門委員，～2016年07月

（ａ）担当授業

（基盤教育）

「哲学ってどんなこと？（哲学）」（後期）

（専門教育）

「論理学概論」（前期），「哲学概論」（前期），「情報記号論」（後期），「基礎講義（文化解釈学）」（後期），「記号論演習」（後期）

（大学院）

「英米哲学特論」（前期）
　卒論指導担当６名
（ｂ）その他
• 「人文学部長就任のご挨拶：人文学部の近況報告をかねて」『ふすま同窓会報』第64号，４頁
• 山大のつどい（東京ふすま会）記念講演「山大人文学部の近況について」，山形大学東京サテライト，2016年９月24日。
• 同　要旨，『乾坤』（東京ふすま会報）第136号，４頁。
研究・教育活動に関するコメント
大がかりな改組への対応が慌ただしい中，個人的な研究の面でも節目の年となった。

小泉　有紀子
研究成果（著書）
小泉有紀子 .「日本の国立大学共通英語教育プログラムについて～横断的調査 .」斎藤兆史監修 北和丈・城座沙蘭・高橋和子　編　英語へのまなざし～斎藤英学塾10周年記念論集～ひつじ書房 . pp.131-148.（共著・査読あり）
研究成果（学会発表）
１. Koizumi, Y. ""Cross-linguistic investigation on the 'not-because' scope ambiguity: the role of pragmatics and prosody." Invited Presentation at the Workshop on Sentence Comprehension and Production. Universidad Autónoma de Madrid. Madrid, Spain. June 16, 2016.
２. Koizumi, Y. & Echenique-Diaz, L. M. ""Prosodic cues in the processing of scope ambiguity: L １ and L ２ productions of the 'not-because' construction in English."" Poster presented at the 22 nd AMLaP（Architectures and Mechanisms for Language Processing）conference. Bilbao, Spain. September １, 2016.
教育・地域連携等の活動
担当授業：
基盤教育：英語 C　英語 R
学部専門教育：実践英語（一）英語学演習　英語の教材分析 B
大学院：現代外国語（英語）
研究・教育活動に関するコメント
　28年度も引き続き YU 海外研究グローイングアッププログラムの助成を受け，スペイン，タラゴナ市の Rovila i Virgili 大学に半年間滞在し，スペイン語の文理解に関するプロジェクト研究を行った。科学研究費補助金 基盤（C）「文理解メカニズムにおける情報・韻律構造の役割：言語間の普遍性と多様性の探求」に関する研究の基礎データを収集し，国際研究協力体制の構築にも実りのある年度となった。授業など教育活動は後期のみとなったが，29年度からまた１年を通じて貢献できるよう努力したい。

合田　陽祐

研究成果（著書）

【共著】塚本昌則･鈴木雅雄（編）『声と文学　拡張する身体の誘惑』所収,「〈操る声〉と〈声の借用〉――ジャリにおける蓄音機，催眠術，テレパシー」，113-120頁，平凡社，2017年３月。

研究成果（論文）

1.「1890年代の「小雑誌」グループについて」,『Nord-est』, 第９-10号，２- ７頁, 2016年５月（査読無）。

2.「編集者としてのジャリとグールモン――前衛版画雑誌『イマジエ』について」,『Nord-est』, 第９-10号，20-25頁，2016年５月（査読無）。

3.『イマジエ』とジャリの美術批評の方法について」,『EBOK』, 第28号, 61-79頁, 2016年５月（査読有）。

4.「離人症と宇宙劇――草間彌生の初期小説について」,『ユリイカ』（特集：草間彌生　わが永遠の魂），青土社，153-162頁，2017年３月（査読無）。

5.「パタフィジックとフィクション――フィクションを構築する語りについて」,『Nord-est』, 第11-12号，41-46頁，2017年５月（査読無）。

研究成果（学会発表）

1.「世紀末の小集団と共同制作――「操り人形座」の戦略とその意義」，日本フランス語フランス文学会秋季全国大会ワークショップ「文学集団の詩学」（熊谷謙介氏，倉方健作氏，福田裕大氏と），於東北大学，2016年10月23日。

2.「パタフィジックとフィクション」，日本フランス語フランス文学会東北支部大会シンポジウム「フィクション化する世界」（宮腰直人氏，摂津隆信氏，柿並良佑氏と），於山形大学，2016年11月26日。

研究成果（その他）

「対訳で楽しむ アルフレッド・ジャリ『超男性』（第一回）」,『ふらんす』，白水社，42-45頁，2016年10月。

「対訳で楽しむ アルフレッド・ジャリ『超男性』（第二回）」,『ふらんす』，白水社，42-45頁，2016年11月。

「対訳で楽しむ アルフレッド・ジャリ『超男性』（第三回）」,『ふらんす』，白水社，42-45頁，2016年12月。

「対訳で楽しむ アルフレッド・ジャリ『超男性』（第四回）」,『ふらんす』，白水社，42-45頁，2016年１月。

「対訳で楽しむ アルフレッド・ジャリ『超男性』（第五回）」,『ふらんす』，白水社，42-45頁，2017年２月。

「対訳で楽しむ アルフレッド・ジャリ『超男性』（第六回）」,『ふらんす』，白水社，42-45頁，2017年３月。

教育・地域連携等の活動

山形大学公開講座2016「ドキュメンタリーとフィクション」において,「フィクションの書き方――ジャリの場合」と題する講座を担当した（ 2016年６月13日。声をかけてくださった先生方

に感謝いたします)。
前期担当授業:フランス語３コマ（法経政策学科×２，理農×１），時事フランス語，表象文化演習，実践教育プログラム。
後期担当授業：フランス語３コマ（人間文化学科×２，理農×１），フランス語講読，実践教育プログラム。
表象文化論コースの協力教員として，前期に表象文化演習を担当したほか，同コースの卒業論文の発表会においてコメントを行った。
日本フランス語フランス文学会東北支部大会（於山形大学）において，シンポジウム「フィクション化する世界」を企画・開催し，研究発表のほかに総合司会を担当した。
卒業論文の指導を一件担当した（「フランス18世紀後半のモードに関する研究」）。
研究・教育活動に関するコメント
　実践教育プログラムで，フランス語圏ケベックに留学を希望する学生４名の指導を行い，全員を審査合格に導いた。長期休暇中には発音矯正や聞き取り等の補講を行い，志望理由書（フランス語の書類を含む）の指導とチェックを綿密に行った。書類作成でも学生をサポートし，派遣先大学とのやり取りを無事終えた。
　ふすま同窓会支援事業「平成27年度後期海外チャレンジ支援プログラム」への応募を学生に呼びかけ，３名の学生がフランスでの研修を行った。
　本年度より，フランス語検定試験の団体受験を開始し，その取りまとめを行った。仏検準２級から５級まで多くの合格者が出た。

コーエンズ　久美子
研究成果（学会発表）
To Modernize or Not To Modernize: Secured Transactions Law in Japan
UNCITRAL – Fourth International Colloquium on Secured Transactions
（国連商取引委員会，担保取引法コロキアム）
Vienna, 15-17 March 2017
研究成果（その他）
「消費者法情報」『現代消費者法』32号（平成28年９月）
「BOOK REVIEW　『動産・債権譲渡登記の実務（第２版)』」『月刊登記情報』
教育・地域連携等の活動
［担当授業］基盤教育基幹科目（共生を考える），商法 I，商法 II，商法演習 I，国際取引マネジメント論（理工学研究科）
［地域連携活動］山形地方最低賃金審議会公益委員，山形県指定管理者選定委員会委員，山形県建築士審査会委員，寒河江市地域づくり推進委員会委員，子育てするなら山形県推進協議会委員
研究・教育活動に関するコメント
　これまでの証券振替制度における証券，証券口座の担保化についての共同研究の対象を動産，債権に広げ，ムーニー教授（ペンシルバニア大学，米国）とともに，小塚教授（学習院大学），原教授（学習院大学）にも参加していただくことになった。まず，わが国の実態をより正確に把

握するため，金融機関，司法書士，弁護士，法務省，経済産業省等に対し聞き取り調査を始めた。同時に，最先端の担保法と捉えられているアメリカ統一商法典，国連商取引委員会の担保取引モデル法，ユニドロアのケープタウン条約との比較，検討をしている。これまでの成果の一端を，国連商取引委員会第４回担保取引法コロキアムにおいてパネルディスカッションの中で報告した。

教育面では，恒例の愛知大学，立命館大学との合同ゼミ合宿を山形大学小白川キャンパスで実施し，事前学習を含め学習指導を行った。学生は，模擬裁判の裁判官として，口頭弁論の進行，判決文の作成に自主的，積極的に取り組み，さらに合宿のための宿泊施設の予約，費用の支払い，交流の場の設定など，さまざまな手続きを滞りなく行った。極めて有意義な経験をしたと思う。

是川　晴彦

研究活動

『国道347号通年通行による地域活性化効果の調査研究』，受託研究（尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会）成果報告書（第３章，第７章，編集総括を担当）

教育，地域連携などの活動

［担当授業］

ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，ミクロ経済学演習，公共経済学特別演習

［地域貢献活動など］

- 山形県（産業構造審議会委員，入札監視委員会委員長，指定管理者審査委員会の外部委員，オールやまがた若者定着推進会議座長）・山形市（行財政改革推進懇話会座長）・天童市（天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員，天童市振興審議会委員）・寒河江市（さがえ未来創生戦略に係る外部有識者会議座長，振興審議会会長）・長井市（行財政改革推進委員会委員長）
- 東北地方整備局入札監視委員　・山形県長寿医療懇談会会長　・米沢市議会における講演
- きらやかマネジメントスクールの企画・運営

平成28年度の研究・教育活動に関するコメント

やまがた地域社会研究所として初めての調査研究を受託した。研究所のメンバーの協力のもとで国道347号通年通行の調査研究を実施し，研究成果をまとめることができた。このほか，やまがた地域社会研究所ではNEXCO東日本の協力を得て学生参加の公開授業を実施するなど，研究所の機能を本格的に発揮する１年となった。

教育面では，講義内容や時間配分の見直しを行うとともに，講義資料に演習問題を追加するなど，受講生が講義内容を効果的に復習できるように心がけた。

今野　健一

研究成果（論文）

「ニューヨーク市の停止・身体捜検政策の検討― Floyd v. City of New York（2013）を中心に―」（共著）『山形大学紀要（社会科学）』47巻１号（2016. ７）pp.69-82.

研究成果（学会発表）

「選挙権・被選挙権年齢，飲酒・喫煙年齢－フランス法を中心に－」比較法研究78号（2017. １）pp.150-156.

研究成果（学会発表）
「選挙権・被選挙権年齢，飲酒・喫煙年齢－フランス法を中心に－」〔第79回比較法学会，ミニシンポジウムB「子どもの法定年齢に関する比較法研究」報告〕（2016. 6. 4／関西学院大学）
教育・地域連携等の活動
・教育
専門科目：憲法Ⅰ，教育法，憲法演習Ⅱ，専門基礎演習，総合講座Ⅱ（法律）
基盤科目：日本国憲法
・地域連携等
山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員／長井高校（模擬講義），塩釜高校（出張講義）
研究・教育活動に関するコメント
研究については，上記業績のほか，刊行予定の研究書・概説書のための原稿を執筆し終えるなど，進捗が見られた。大震災に関わる科研費課題のための被災地訪問にも注力した。教育については特にない。

坂本　直樹
研究成果（著書）
経済学概論，矢口和宏・坂本直樹編，みらい，2016. 4.
研究成果（論文）
・救急搬送され救命された心肺停止傷病者の予後に関する道路整備のアウトカムとその便益の評価：サンプルセレクションを考慮した順序反応モデルアプローチ，坂本直樹，生川雅紀，Discussion Paper No.2016-E03, Research Group of Economics and Management, Faculty of Literature and Social Sciences, Yamagata University, pp. 1-28, 2016.12.
研究成果（学会発表）
・救急搬送時間の短縮による予後改善のアウトカム評価：サンプルセレクションを考慮した順序反応モデルによるアプローチ，坂本直樹，生川雅紀，中嶌一憲，阪田和哉，瀧本太郎，2016年度日本応用経済学会春季大会（広島大学），2016. 6.
・Measuring the benefits of mortality risk reductions by decreases in emergency transport time, Naoki Sakamoto, Kazuya Sakata, Taro Takimoto, Kazunori Nakajima, Masaki Narukawa, 56th European Reagional Science Association Congress（Vienna, Austria），2016. 8.
教育・地域連携等の活動
・教育
財政学（前期），財政学（後期），地方財政論（前期），地方財政論（後期），財政政策論（東北学院大学経済学部，通年），地域ガバナンス論（東北文化学園大学，前期）
・地域連携等
公益財団法人東北自治研修所 東北六県中堅職員研修「自治体財政」講師
研究・教育活動に関するコメント
救急医療の費用便益分析についての共同研究を継続しており，平成28年度はこの研究に関する

１編のディスカッション・ペーパーをまとめることができた。教育については，統計データを利用した財政学の演習に力を入れたい。

佐藤　清人

教育・地域連携等の活動

【担当授業科目】

基盤教育：英語（R），英語（C）

専門教育：英米文学概論（二），英米文化講読，英作文（中級）

大学院：英米近代文化論特別演習

研究・教育活動に関するコメント

　太平洋戦争中に強制収容という共通な体験を持つ日系アメリカ人作家がそうした体験をどのように理解し，文学作品として表象しようとしたのか研究している。

柴田　聡

研究成果（論文）

Yeunyoung Kwon, Yosuke Kanno, Kyung-won Chung, Satoshi Shibata, and Ki-young Nam（2016）""ORGANIZATIONAL CONDITIONS SUPPORTING DESIGN QUALITY: A COMPARISON BETWEEN KOREA AND JAPAN""The Design Journal（forthcoming）査読有

研究成果（学会発表）

菅野洋介 , 柴田聡（2016年）“ デザイン部門の参加が成果に及ぼす影響とマネジメント要因のマルチレベル分析 ” 実践経営53.39-50，査読有

菅野洋介 , 柴田聡（2016年）“ デザイン・マネジメントの日韓比較研究 ” 日本経営学会90回全国大会　専修大学　査読有

教育・地域連携等の活動

指導学生が株式会社野村総合研究所マーケティング分析コンテスト2016に佳作入賞

下平　裕之

研究成果（学会発表）

- 「経済学史研究におけるテキストマイニングの活用－ベヴァリッジ報告を事例として－」経済学史学会西南部会第121回例会，2016年７月２日（九州学院大学）
- 「ケインズの BBC ラジオ放送に関するテキストマイニング分析」28年度ケインズ学会東北部会，2017年２月23日（東北大学）

研究成果（その他）

- 「地域社会の長期的動態を探るためのアンケート調査（幸福度）調査報告書」『平成27年度東北創生研究所年次報告書』，３－12ページ，平成28年９月.
- 『山形市高瀬・山寺地区における地域実態調査と地域活性化策に関する調査研究報告書』平成29年３月.

教育・地域連携等の活動

・教育活動

山形大学における担当授業：

［学部］経済思想，経済学史，経済学史演習，地域づくり特別演習，公務員対策セミナー（論作文指導）

［大学院］イギリス経済学史特論・特別研究

［基盤教育］Ｊリーグと地域社会，最上川から山形を考える，災害復興学入門

非常勤:放送大学（客員教授),羽陽短期大学（経済学),東北文教大学（地域と観光),福島大学（社会思想史）

・地域連携活動

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加

山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長

山形県職員育成センター主査級研修講師

山形県職業能力開発審議会会長

山形県公共事業評価監視委員会委員

市民向け講演会（山形市，鶴岡市）

研究・教育活動に関するコメント

科研費(基盤研究(B))による「テキストマイニングによる経済学の大衆への普及プロセス研究」というテーマで継続して研究を進め，２回の学会報告を行うことができたが，年度内の論文化ができなかったため次年度の課題としたい。またテキストマイニングの手法を長井市市民アンケートの自由記述に適用し，市民の幸福度に関する意識の分析を行った。学術研究の成果を地域連携にも応用することができ有益であった。

尻無濱　芳崇

研究成果（論文）

黒木 淳, 尻無濱 芳崇（2016）「病院・介護施設における管理会計システムの特徴とその比較：大阪府を対象としたサーベイ調査から」

『病院』75（９）：700-707

研究成果（学会発表）

Shirinashihama, Y. 2017. Interaction or Mediation? The Relationship Among Top Manager Characteristics, Budgetary Control, and Financial Performance: Evidence from Japanese Nonprofit Nursing Homes. 14th Annual Conference for Management Accounting Research（ACMAR）

Morimitsu, T. and Y. Shirinashihama. 2016. Cost Manipulation in Defense Procurement Contracts: Evidence from Japanese Contract Data.　8 th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference

Okada, K., Y. Shirinashihama and M. Kuroki. 2016. Network inter-organizational structures among healthcare and social welfare organizations. 8 th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting

Conference
森光 高大・尻無濱 芳崇（2016）「防衛調達に関する契約時概算価格と実績価格との差異の検証：利益調整研究手法の応用」日本会計研究学会第75回大会
尻無濱 芳崇（2016）「認知的タスク分析を用いた原価情報利用の分析：介護事業を対象とした予備的調査」日本原価計算研究学会 第 42 回全国大会
教育・地域連携等の活動
例年担当している科目に加え，基盤教育科目として「財務諸表の読み方」という全学１年生対象の科目を開講した。
PBL の準備のため，洪教授と合同で「創業体験プログラム」を開講した。
楽天球団との PBL にも携わった。
地域貢献活動としては，南沼原地域包括支援センター，山形市社会福祉協議会，山形市役所等と連携して，山形市南沼原地区の交通ニーズ調査・分析を行った。分析結果を市民対象の「南沼原カフェ」で講演し，市民との対話を行った。
研究・教育活動に関するコメント
　学会報告は十分できたが，査読対応がうまくいかず，論文が一つしか発表できなかった。来年度は挽回したい。

杉野　誠
研究成果（論文）
Sugino, M., Morita, M., Iwata, K. and Arimura, T.H.（forthcoming）. ""Multiplier impacts and emission reduction effects of Joint Crediting Mechanism: analysis with a Japanese and international disaggregated input–output table,"" Environmental Economics and Policy Studies, DOI 10.1007/s10018-016-0177-y.
杉野誠･井上雄介（2017）「環境情報開示と企業価値―CDP レポートによる評価―」, 環境科学会誌, 30（２）, 150-160 .
研究・教育活動に関するコメント
　地域連携が弱いため引き続き強化に努めていく。

鈴木　明宏
研究成果（論文）
Reconsidering Whether Women are Less Selfish than Men: Group Gender Composition Matters in Dictator Games（DOI: 10.2139/ssrn.2941276）（小川・高橋・竹本との共著）
研究成果（学会発表）
数理社会学会（2017年３月）
教育・地域連携等の活動
［担当科目］
- ゲーム理論，産業組織論，経済数学，意思決定論演習，専門基礎演習，総合講座Ⅲ

［出張講義］
- 鶴岡南高校（2016.10.5 , 2回）

• 安積黎明高校（2016.11. 9）

［社会連携等］

• 山形大学まちづくり研究所（山形大学認定研究所）メンバー

• OR 学会2016年秋季研究発表会実行委員

研究・教育活動に関するコメント

研究活動についてはまず，上記論文を海外雑誌に投稿中である。昨年度にも行っている携帯電話を用いた経済実験プログラムについては，新しいプログラムを追加したことにより発生したバグの修正作業に手間取っている。また，金融リテラシー調査について日本銀行から年度末にデータを借り受けた。これについては今後の研究に生かしていきたい。

教育活動については，２校で３回の出張講義を行った。予算面で不安な報告が教授会でなされているが，広報活動の一環として今後も可能な範囲で協力していきたい。

また，本年度は学長（特別講演）や事務の方々（会場の手配等），他大学の先生方のおかげで，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季大会・秋季シンポジウム（2016. 9.14-16）を山形大学で開催することができた。山形大学における学会員が他におらず苦労したが，協力していただいた方々に深く感謝する。

上では記載していないが学内活動においては，COI・OPERA・Edge-Next といった工学部との連携活動に協力することとなった。微力ではあるが，学部間連携についても今後も協力していきたい。

鈴木　亨

研究成果（著書）

共編（2016）『言語学の現在を知る26考』菊地朗・秋孝道・鈴木亨・富澤直人・山岸達弥・北田伸一（編），研究社 .

研究成果（論文）

• 鈴木亨（2016）「'Think different' から考える創造的逸脱表現の成立」菊地朗他（編）『言語学の現在を知る26考』, 241-253, 研究社出版 .

• Toru Suzuki（2017）"Spurious Resultatives Revisited: Predication Mismatch and Adverbial Modification,"『山形大学人文学部研究年報』第14号 , 69-104.

研究成果（学会発表）

• 「創造的逸脱表現の文法と意味解釈－ Think different の周辺から」, 成蹊大学アジア太平洋研究センター共同研究プロジェクト「認知言語学の新領域開拓研究」における講師発表（成蹊大学 , 2016年７月17日）.

教育・地域連携等の活動

担当授業：英語（C）, 英語（R）, スタートアップセミナー , 英語学特殊講義 , 日英対照言語学講義 , 教職実践演習（英語）, e-learning, 卒論指導（２名）

教員免許更新講習：「授業に役立てる英文法の学び直し」（2016年８月３日）

東南置賜地区中高英語弁論大会審査員（2016年８月25日）

研究・教育活動に関するコメント

研究面では，逸脱表現の文法と言語変化の関係について研究を進めた．教育面では，授業時間外の課題として英語の多読レポートを課すなど，多面的な英語力の養成に努めた．

砂田　洋志

研究成果（その他）

「国道347号通年通行による地域活性化効果の調査研究― 尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会委託事業　成果報告書 ―」，2017年３月，共著．

教育・地域連携等の活動

担当授業

計量経済学，統計学，演習（学部），法経政策専門基礎演習，社会の教材分析 B（教職科目），計量経済学特論Ⅰ（大学院）

地域連携

- 山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った。
- 山形県統計利用アドバイザーを任命されており，必要に応じて相談に応じている。
- 山形県庁統計企画課主催の統計専門研修の講師として講義した（平成28年９月）。
- 山形県経済動向研究会に同会の構成員として参加した（平成28年８月と同29年３月）。

研究・教育活動に関するコメント

- 高頻度の金融データに関する研究に対して科学研究費補助金を得ているので，研究計画に基づき研究を少しずつ進めたいと考えている。
- 本年度は法経政策学科長を命じられた。通常業務に加えて，学部改編に係る業務が忙しくて研究時間をほとんど確保できなかった。平成29年度は管理運営業務の負担が軽減されるので，研究に集中したいと考えている。

摂津　隆信

研究成果（論文）

観客と文化のディスクール　―カール・ファレンティンにとってのミュンヒェン―（「山形大学大学院社会文化システム研究科紀要」，山形大学，第13号，１-12頁）

研究成果（学会発表）

Die Wandel von Theorie der Komik und die Werke Karl Valentins（発表言語：ドイツ語）（Germanistik in Zeiten des großen Wandels – Tradition, Identität, Orientierung［die Asiatische Germanistentagung（AGT）］，韓国＜中央大学校＞）

テクストの演劇性と喜劇テクストの言語　―カール・ファレンティンのディアローグ作品『よそものたち』―（東北ドイツ文学会第59回研究発表会，岩手大学）

シンポジウム　「フィクション化する世界」本物≒フィクション？　―「リミニ・プロトコル」の上演法について―（日本フランス語フランス文学会東北支部大会，山形大学，発表者：摂津隆信，合田陽祐，宮腰直人，柿並良佑）

研究成果（その他）

劇評　演じることの免罪符　『スポーツ劇』（「Brunnen」，郁文堂，Nr. 499，13-15頁）

教育・地域連携等の活動
出張講義
『日本人は日本語ができればOK?!　―ドイツ語と日本語の知られざる関係― 』（2016年７月14日　山形県立谷地高等学校）
『進撃のドイツ語　―日本語とドイツ語の関わり― 』（2016年８月５日　山形大学アカデミックキャンプ）
『人文学って，何するの？―演劇学を例に―』（2016年10月18日　宮城県宮城広瀬高等学校）
第九回山形大学高校生朗読コンクール審査員
担当授業
ドイツ語 I/II，ドイツ語講読，時事ドイツ語，国際文化学概論，欧米文化演習，表象文化演習
研究・教育活動に関するコメント
　教育，研究，地域連携，学務等，多岐にわたる業務を行うことができた。当該年度に刊行された論文は１本のみだが，次年度に３本刊行されることが決定している。

十川　陽一
研究成果（論文）
「律令国家と出羽国―地域的特質についての基礎的考察―」（『山形大学歴史・地理・人類学論集』18,2017年３月）
研究成果（学会発表）
「律令官人制と古代の東北」（仙台古代史懇話会，2016年７月23日）
「律令国家と出羽国―地域的特質についての基礎的考察―」（三田古代史研究会,2016年９月24日）
研究成果（その他）
「2015年の歴史学会―回顧と展望」（日本（古代）のうち，奈良時代の制度・政治・都城などについて担当）（『史学雑誌』125-5,2016年５月）
「（書評）吉田歓著『日中古代都城と中世都市平泉』」（『歴史』127,2016年10月）
「（書評）海野聡著『奈良時代建築の造営体制と維持管理』」（『古代文化』68-3,2016年12月）
教育・地域連携等の活動
「古代の出羽―山形県域を中心に―」（山形大学都市・地域学研究所公開講座「山形の魅力再発見パート14」2016年９月３日）
「古代の最上」（西村山地域史研究会　市民講座「山形の歴史を学ぶ」，2016年９月10日）
「地名から見た古代日本」（福島県立喜多方高等学校　大学訪問模擬講義，2016年10月25日）
研究・教育活動に関するコメント
　年度内に刊行されたものは少ないが，専ら執筆に時間を割いた一年となった。次年度は，少し落ち着いて史料と向き合う時間を取れるように過ごしたい。

髙倉　新喜
研究成果（論文）
・髙倉新喜「最新判例演習室―刑事確定訴訟記録の閲覧制限事由」『法学セミナー』736号（2016

年）124頁
- 髙倉新喜「最新判例演習室―上告審における事実誤認の審査」『法学セミナー』739号（2016年）122頁
- 髙倉新喜「最新判例演習室―起訴前の精神鑑定の党派性」『法学セミナー』742号（2016年）130頁
- 髙倉新喜「最新判例演習室―裁判員裁判と刑訴法17条１項２号に該当する事由」『法学セミナー』745号（2017年）122頁

教育・地域連携等の活動
- 専門科目：刑事訴訟法
  刑事法基礎
  刑事訴訟法演習
  法と裁判
  法経政策専門基礎演習
  総合講座Ⅱ（刑事訴訟法の部）
- 地域連携

出張講義：山形県立鶴岡南高校（テーマ：「法律学って，何やるの？」）
山形県介護保険審査会委員
山形県精神医療審査会委員
山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
山形地方裁判所委員会委員
山形少年鑑別所視察委員会委員
山形県弁護士会綱紀委員会予備委員
山形県教職員法令順守委員会委員長
取材協力：朝日新聞（日弁連「死刑廃止」宣言について）

研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては，法学セミナーの「最新判例演習室―刑事訴訟法」の執筆を継続した。教育活動においては，刑事訴訟法演習での現地学習として山形刑務所の見学を実施した。

髙橋　和

研究成果（論文）

「ユーロリージョンの拡大は何を意味するか」『フラタニティ』No. 2, 2016年５月，42-47頁

研究成果（学会発表）

Japan's　Immigration Policy and the EPA between Philippines and Japan'
The Joint Reserach Forum on Migration at University of San Carlos, March 16, 2017.

教育・地域連携等の活動

教育：国際関係論，国際関係論演習，国際公共政策，地域の国際化，基礎演習を担当。

地域連携：山形最低賃金審議会公益委員，山形地域労働政策審議会委員長
山形県行政改革推進委員会委員長，山形県障害者施策推進協議会委員など

高大連携：山東塾
出張講義：仙台白百合学園高等学校
研究・教育活動に関するコメント
研究：人文学部所属の教員６名とサンカルロス大学と「移民」に関する共同プロジェクトを昨年度から行っており，28年度は USC においてシンポジウムを実施した。
教育：主体的な学習を促すために，国際公共政策ではクリッカーを使用した。
国際関係論演習では，モザンビークのエイズ孤児を支援するための募金活動をおこなった。また国際関係を理解するためい留学を積極的に勧めており，28年度はゼミ生のうち４名が留学経験をしている。

髙橋　真彦
研究成果（学会発表）
Takahashi, Masahiko. 2016. Case, improper movement, and clausal arguments in Japanese. Comparative Syntax and Language Acquisition（CSLA）# ６ 2016年度統語論・言語獲得論ワークショップ（招待有り）.
教育・地域連携等の活動
授業:実践英語（三），言語学演習，言語学総合講義（１コマ），人間文化入門総合講義（１コマ），スタートアップセミナー，英語（R），英語（C）
卒業論文：言語学（正指導１名，副指導１名）
修士論文：副指導１名
高校訪問２校
出張講義１件
研究・教育活動に関するコメント
　前年度に引き続き長距離名詞句移動についての考察を行った。

高橋　良彰
研究成果（論文）
「登記制度の担い手はどうなるのか」2016年８月『市民と法 No.100』民事法研究会（pp.49-55）
「不動産登記制度と予防司法」2016年10月『月報司法書士 No.536』日本司法書士会連合会（pp.４-11）
教育・地域連携等の活動
　大学の講義では，金融法入門・債権総論担保物権・相続法・演習などを担当した。また，総合講座 II（法律）の世話人をしていたことから山形県介護支援専門員協会の眼に留まり，その依頼により山形県介護支援専門員実務研修・更新研修において法学入門に当たる講義を行うことになった。介護支援専門員としての実務研修であったが，法律の知識の必要性が今後増えてくるとの主催者の思いから，自習の時間として予定された時間を使ってのものとなった。
研究・教育活動に関するコメント
　本年度は，基盤教育実施会議委員として学部教育委員会にも出席するとともに，大学院の運営

委員として活動した。両者とも二年任期の二年目であり，様々な問題が持ち上がったが，何とか任期を全うできた。研究については，本年度に公刊された論稿は二つにとどまった。いずれも司法書士絡みのものであり，これまでの研究からの帰結である。

溜川　健一

研究成果（論文）

- Tamegawa（2016）""Rating for government debt and economic stability,"" The Journal of Economic Asymmetries, Vol.13, pp.35-44.
- Tamegawa and Fukuda（2016）""Expectation errors in credit market and business cycles,"" Macroeconomic Dynamics, Vol.20, pp.1359–1380.（共著：福島大学　福田慎）

教育・地域連携等の活動

教育

専門科目：マクロ経済学，応用マクロ経済学，マクロ経済学演習

基盤科目：教養として知っておきたい経済学

地域連携等

出張講義：秋田県立本荘高等学校

研究・教育活動に関するコメント

研究・教育・地域連携，全ての面で満足できていないため，さらに精進していきたい。

富澤　直人

研究成果（著書）

- 共編　『言語学の現在を知る26考』菊地朗・秋孝道・鈴木亨・富澤直人・山岸達弥・北田伸一（編），研究社，2016年６月.

研究成果（論文）

- 単著　「Alleged 類形容詞受身形の統語派生」，菊地朗・秋孝道・鈴木亨・富澤直人・山岸達弥・北田伸一（編）『言語学の現在を知る26考』277-288，研究社，2016年６月.

研究成果（その他）

- 項目執筆　『増補版チョムスキー理論辞典』原口庄輔・中村捷・金子義明（編）研究社，2016年12月.

教育・地域連携等の活動

- 基盤教育：英語 R，英語 C，スタートアップセミナー
- 学部:英語学概論, 英語学特殊講義（後期), 基礎講義（言語）（４コマ), 言語学総合講義（１コマ）
- 大学院:英語学特論Ⅰ, 現代外国語（英語）Ⅱ（前期), 言語科学特別研究Ⅱ（英語学）（前後期）
- 卒論（英語学）（正指導１，副指導２），修士論文（英語学）（正指導１）
- 高校訪問（４校）

研究・教育活動に関するコメント

- 科研費（基盤研究（C））「派生語の演算子移動分析とその帰結」の研究の初年度となった。

冨田　かおる

研究成果（論文）

Analytical Visualization for Learning Foreign Language Sounds, Bulletin of Yamagata University（Humanities）18：４, 89-101.

教育・地域連携等の活動

担当授業　言語学特殊講義, 英語学演習, 実践英語, スタートアップセミナー, 英語（R), 英語（C）

研究・教育活動に関するコメント

言語生成を主なテーマとし，発話の音響分析を基に，母語話者と言語学習者の母音・子音特徴分析を行った。

戸室　健作

研究成果（著書）

- 教育開発研究所編『教育の最新事情がよくわかる本３』教育開発研究所，2016年６月１日
  戸室担当：「子どもの貧困が倍増してるって本当なの？」152-155頁。

研究成果（論文）

- 「子どもの貧困―ワーキングプアの視点から―」『神奈川大学評論』84号，2016年７月30日，73-81頁。
- 「足立区『子どもの健康・生活実態調査 平成27年度報告書』を読む」『月刊東京』377号（2016年８・９月号），2016年８月１日，50-56頁。
- 「子どもの貧困の現状と解消に向けて」『月刊保団連』1225号（2016年10月号），2016年10月１日，４-10頁。
- 「都道府県別ワーキングプア率の検討」『経済』254号（2016年11月号), 2016年11月１日, 54-63頁。
- 「子育て貧困世帯の動向」『季刊個人金融』11巻３号，2016年11月，38-47頁。
- 「安倍政権の雇用政策の検討」『山形県の社会経済』29号，2016年12月14日，22-29頁

研究成果（その他）

- 「〈巻頭言〉子どもの貧困削減のために共同の運動で大きなうねりを！」『月刊生活と健康』４月号，2016年４月15日，１頁。
- 「増えつづける「子どもの貧困」どう解決する？」『I 女のしんぶん』2016年６月10日，２面。
- 法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑 第86集 /2016年版』旬報社，2016年６月27日
  戸室担当：「経営労務の動向」178-189頁。
- 「経済教室 貧困・格差をどうするか㊦ ワーキングプア対策急務」『日本経済新聞』2016年12月28日朝刊，27面
- 『貧困サバイバルガイド～理不尽と闘うための理論と資源 入門～』ぷらっとほーむ，2017年２月18日
  戸室担当：「拡大する貧困の現状と対策」２-５頁。

教育・地域連携等の活動

［担当授業科目］

- 専門教育科目：社会政策論，社会保障論，労働と生活，社会政策論演習，卒業論文指導，法経

政策総合講座Ⅰ（オムニバス１回担当）
- 基盤教育：スタートアップセミナー
- 大学院：社会政策特論Ⅰ，プロジェクト演習Ⅰ，社会政策特別演習

［委員会活動等］
- 小白川キャンパスキャリアサポートセンター連絡会委員
- 人文学部公務員対策講座実施委員会委員
- 人文学部進路指導委員

［学会活動］
- 社会政策学会幹事（ニューズレター担当）
- 社会政策学会秋季大会企画委員会委員
- 日本労働社会学会幹事（研究活動担当）
- 日本労働社会学会第28期第２回研究例会の司会を担当する（2016年７月２日15:00-18:00，青山学院大学青山キャンパス）。
- 社会政策学会第133回大会の「自由論題⑧ 労働２」セッションで座長を担当する（2016年10月16日15:00-17:00，同志社大学今出川キャンパス）
- 日本労働社会学会第28回大会のシンポジウム「人口減少下の労働社会」の司会を担当する（2016年10月30日10:30～16:00。法政大学多摩キャンパス11号館３階305教室）

［地域連携等］
- 社会福祉法人山形県社会福祉協議会評議員
- 山形県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員
- 連合山形寄付講座「労働と生活」担当
- 山形大学職員組合人文支部執行委員（書記長）
- 記事「子供の貧困　現状と課題」『朝日新聞』（和歌山県版，朝刊）2016年４月４日，27面
- 記事「子供の貧困世帯15.３％ 震災影響か，急速に悪化」『讀賣新聞』（宮城県版，朝刊）2016年４月８日，29面
- 記事「Hidden poverty a growing problem despite Abe assurances」『The Japan Times』2016年４月27日，３面
- 講演「地域活性化に向けて　貧困の現状と解消に向けた今後の課題～格差社会に歯止めをかける～」連合山形北西村山地域協議会主催（2016年５月16日18:00-19:45。寒河江市総合福祉保健センター）
- 講演「貧困の現状と解消に向けた今後の課題～格差社会に歯止めをかける～」連合山形主催（2016年５月30日16:05-16:50。大手門パルズ３階）
- 講演「貧困の現状と課題」山形県子育て推進部主催（2016年６月30日14:00-15:30。山形県建設会館大会議室）
- 講演「拡大する貧困の実態と原因」山形大学アカデミックキャンプ（2016年８月４日11:00-12:30。山形大学人文学部棟１号館103教室）
- 講演「拡大する子どもの貧困率―格差社会をどう食い止めるのか―」日本証券業協会主催（2016年８月９日14:30-15:45。仙台市情報・産業プラザ）

- 講演「拡大する子どもの貧困率―格差社会をどう食い止めるのか―」日本証券業協会主催（2016年８月17日15:45-17:00。愛知県産業労働センターウインクあいち小ホール）
- 記事「「貧困高校生」報道 炎上の異常」『東京新聞』（朝刊）2016年８月23日，26-27面。
- 講演「拡大する貧困の実態と対策」働くもののいのちと健康を守る東北セミナー（2016年９月25日９:00-11:00。宮城県松島町ホテル花ごころの湯新富亭）
- 講演「拡大する子どもの貧困―その現状と課題―」山形県議会子ども支援対策特別委員会（2016年９月26日14:10-15:40。山形県議会南棟３階第２委員会室）
- 講演「拡大する子どもの貧困の実態と対策」女性の貧困と労働･社会保障を考える会主催（2016年10月２日10:00-12:00。宮城自治労会館）
- 講演「拡大する貧困の現状と対策」第66次山形地区教育研究合同集会（2016年10月７日18:30-20:00。山形ビッグウィング４階中会議室）
- 講演「拡大する貧困の現状と対策」岩手県立大船渡高等学校への出張講義（2016年10月19日13:50-15:20）
- 記事「子どもの貧困，20年で2.5倍に」『厚生福祉』6285号，2016年11月18日，10-12頁。
- テレビ放送「「子どもの貧困」の実情」山形テレビ「YTS ゴジダス」2016年11月22日
- 記事「つながり歩む １ 窮地 母子だけ もう無理かも」『朝日新聞』（山形県版，朝刊）2016年11月23日，29面
- 講演「現在の貧困問題について」山形県社会保障推進協議会第20回定期総会記念講演（2016年11月26日15:00-16:30。山形ビッグウィング403会議室）
- 講演「拡大する日本の貧困」第24回教育を考える市民フォーラム（2016年12月10日13:30-16:00。ヒルズサンピア山形）
- 講演「現在の貧困問題について」山形県福祉・心理職研究協議会研修会（2016年12月16日18:00-19:30。山形県村山保健所講堂）
- テレビ放送「吉村県政検証２「子どもの貧困」」山形放送「YBC news every.」2016年12月28日
- 講演「拡大する子どもの貧困の現状と対策」真宗大谷派山形教区教化委員会（青少年教化小委員会）主催（2017年１月23日14:00-17:00。真宗大谷派山形教務所）
- 講演「拡大する貧困の現状と対策」宮城民医連中堅職員研修会（2017年２月４日14:00－17:00。スタンダード会議室仙台一番町）
- 講演「子どもの貧困, 克服のために」第31回制度研東北ブロック交流集会（2017年２月26日９:00-12:00。大手門パルズ）
- 講演「拡大する貧困の現状と対策」ぷらっとほーむ講演会（2017年３月４日14:00-16:00。山形市東部公民館）
- 講演「拡大する貧困の現状と対策」NPO 法人日野・市民自治研究所定例研究会（2017年３月25日14:00-16:00。ゆのした市民交流センター）

研究・教育活動に関するコメント

毎年，福島大学，埼玉大学，立教大学と行っている社会政策関係の合同合宿について，今年度の幹事校は山形大学であったが，ゼミ生のがんばりによって，無事，その任を果たせた。講義では，後期の「社会保障論」から，全面的にパワーポイントを使用した講義方法に改めた。

今年度は，昨年度に発表した子どもの貧困についての論文内容を，講演などで多くの市民に伝える機会に恵まれた。講演後の質疑応答等から，次の研究につながるヒントや課題を得ることができた。日本労働社会学会幹事の仕事（２期４年）を終えることができた。

中澤　信幸

研究成果（論文）

- 台湾人日本語学習者と台湾語音　―母語意識・居住地域等との相関から―，『天理臺灣學報』25（天理台湾学会），pp.121-139，2016年７月

研究成果（学会発表）

- 台湾語母語話者と日本漢字音，天理台湾学会第26回研究大会，2016年７月２日

研究成果（その他）

- 日本語学会2016年度秋季大会，山形大学小白川キャンパス（開催校委員として運営に携わる），2016年10月29～30日

教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

- 学部専門科目：日本語（一），日本語学概論，国際文化学概論，日本語学特殊講義，日本語学演習，日本語学講読，近現代東アジア地域論（二），言語学総合講義，基礎講義（言語），国語の教材分析 B
- 大学院科目：日本語史特論Ⅰ，日本語史特別演習
- 基盤教育科目：スタートアップセミナー，日本語と他言語共生社会（共生を考える），日本語音韻史入門（言語学）

〔卒業論文〕

- 小説における日中同形語の対照
- 日本語学習者の和語・漢語の使い分けに関する研究
- 日中オノマトペの対照　―漫画『KANO』を資料として―

〔地域連携〕

- 麗しの島・台湾の産業について知ろう，NHK 文化センター仙台教室講座，2016年７月17日
- 方言研究史と山形方言，山形大学都市・地域学研究所公開講座「山形の魅力再発見パート14」，2016年10月１日

研究・教育活動に関するコメント

台湾に滞在して行った研究の成果に基づいて，昨年に引き続いて論文執筆および学会発表を行った。また科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金，基盤研究（C）（一般），研究課題名：多言語併存状況下における台湾語の現状と変容，課題番号：15K02501，研究期間：平成27～29年度，研究代表者：中澤信幸）による研究活動を，引き続き行った。加えて，山形大学で行われた日本語学会の大会に，開催校委員として携わった。

教育面では，「日本語学演習」で方言に関する PBL 授業を実施し，河北町へ学生を引率して方言調査を行った。

中島　宏

研究成果（著書）

- 山本龍彦・清水唯一朗・出口雄一編著『憲法判例からみる日本―法×政治×歴史×文化』（日本評論社，2016年９月）（担当：中島宏・荒井英治郎「『大学の危機』時代に考える学問の自由・大学の自治」187～211頁）
- 山口直也編著『子どもの法定年齢の比較法研究』（成文堂，2017年２月）（担当：「フランス公法における年齢設定」233～254頁）

研究成果（論文）

- 「団体規制法制の再検討」宗教法35号（2016年11月）91～117頁
- 「フランスにおける宗教的着衣規制に関する覚書」辻村みよ子編集代表『講座　政治・社会の変動と憲法－フランス憲法からの展望－第Ⅱ巻　社会変動と人権の現代的保障』（信山社，2017年３月）219～238頁

研究成果（学会発表）

- 「夫婦同氏制の合憲性」国際人権法学会研究大会（2016年11月13日，法政大学市ヶ谷キャンパス）
- Le principe constitutionnel de séparation entre l'État et la religion au Japon, Colloque international « Loi divine et Raison », le 8 décembre 2016, Sciences Po campus européen de Dijon, France
- The ban on face covering and the religious liberty in France, Joint research forum on migration, March 16, 2017, University of San Carlos, Philippines

研究成果（その他）

- 書評：ナタリ・リュカ（伊達聖伸訳）『セクトの宗教社会学』」宗教法35号（2016年11月）207～212頁
- 実践報告：「教養セミナー『映画で考える憲法問題』の実践例と課題について」山形大学高等教育研究年報11号（2017年３月）６～９頁

教育・地域連携等の活動

［教育］

- 基盤：日本国憲法，教養セミナー
- 専門：憲法Ⅱ，憲法Ⅲ，憲法演習Ⅰ，公務員対策セミナー
- 非常勤：放送大学山形学習センター面接授業担当
- 表彰：平成28年度基盤教育ベストティーチャー賞，奨励表彰に模擬裁判実行委員会を推薦

［地域連携］

- 審議会：①山形市個人情報保護制度運営審議会，②天童市情報公開・個人情報保護審査会，③山形県後期高齢者医療広域連合個人情報保護制度運営審議会
- 講演：①西置賜地区平和センター学習会（2016年６月９日，長井市民文化会館），②自治労山形県本部女性労働学校（８月10日，山形市男女共同参画センター「ファーラ」），③革新懇話会講演（10月22日，遊学館），④平成28年度山形大学 OB&OG セミナー（2017年３月４日，田町グランパークプラザ）
- 出張講義：①山形県立山形北高校（６月16日），②山形県立米沢興譲館高校（７月８日），③宮城県宮城第一高校（９月30日）

- 取材協力：①山形新聞６月21日「県内，政治と若者（下）識者の視点」，② SAY さくらんぼテレビ７月７日みんなのニュース，③ TUY テレビユー山形７月８日 N スタ山形，④ SAY さくらんぼテレビ７月10日選挙特番，⑤ YTS 山形テレビ７月13日ゴジダス，⑥ SAY さくらんぼテレビ８月12日みんなのニュース
- オープンキャンパス：コース説明会（７月30日）
- アカデミックキャンプ：企画運営および模擬講義（８月４・５・16日）
- 公開講座：「非常事態と緊急事態条項について考える」（10月４日）

研究・教育活動に関するコメント

今年も様々な仕事を行うことができた。同時に複数の原稿執筆（というより締切をはるかに過ぎた原稿の督促）に追われて苦しみ続けた。海外での研究報告は良い経験となった。また，18歳選挙権に関連する取材・出張講義が多かった。加えて，３年連続でベストティーチャー賞を拝受した。感謝申し上げたい。

中村　篤志

研究成果（学会発表）

「藤田嗣治「北平の力士」と清朝宮廷相撲」山形大学歴史･地理･人類学研究会第18回大会（2016年６月18日，山形大学）

研究成果（その他）

翻訳：アルタンザヤー「モンゴルにおける印信ホトクトのシャビ＝ナルの牧地について」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第18号，2017年３月，pp.13-24

教育・地域連携等の活動

地域連携

- 2016年度放送大学山形学習センター面接授業担当
- 招待講演：「モンゴル遊牧民の今と昔：「伝統的」生活と近代化」スマイル倶楽部第76回フォーラム（2016/11/５　於：山形市十日町アイナリースクエア）

担当授業

- 主担当：文化動態論（アジア），アジア史講義（二），アジア史演習（二）前・後期，アジア史史料講読（二），基盤「モンゴル遊牧民の歴史（歴史学）」
- 分担担当：人間文化基礎（文化動態論），文化動態論演習（後期），基盤「グローバル社会に生きる君達へ」，人間文化入門総合講義

研究・教育活動に関するコメント

- 2016年５月28,29日に山形大学および天童市で開催された第65回東北中国学会（参加106名）の事務局を勤めた。
- 代表を務める科研費基盤Ｃ「日記史料からみた清末のモンゴル王公と清朝支配」の最終年度として成果のとりまとめを行ったほか，本年度より開始した同基盤Ｃ「清代モンゴルにおける駅站システムの運用実態とその政治・社会史的意義」の調査・研究に従事した。
- 新学部の人間文化コースプログラム代表として，昨年度より継続して新コースの制度設計に携わった。

・基盤教育ディレクター，サブディレクターとして時間割編成などに関わった。

中村　隆

研究成果（論文）

『オリヴァー・トウィスト』におけるホガース的瞬間（山形大学人文学部『研究年報』第14号，2017（２月），pp. 1 -17）

教育・地域連携等の活動

基盤教育において，英語の４技能（読む，聞く，話す，書く）の涵養をはかった。専門教育では，英米文学講読で，英文のエッセイを精読した。実践英語では，TOEIC の長文問題に取り組んだ。英文学特殊講義では，英詩，イギリス小説，漱石と英文学等々の話題を幅広く論じた。

平成28年７月のオープンキャンパスにおいて人文社会科学部およびグローバススタディーズの説明広報を担当した。同年８月に，教員免許講習を実施した。

研究・教育活動に関するコメント

研究では，ここ数年間のホガース研究の成果となる論文を書くことができた。ただし，全国誌への掲載はできなかった。これまでに取り上げてこなかった夏目漱石と英文学という視座における研究に着手することができた。

教育面では，英語のバランスのよい技能の涵養をはかった。講義では一方通行ではなく，しばしば問いを発し，それに対するレスポンスを要求することで学生たちの考える力を刺激できたと思案する。

西岡　正樹

研究成果（論文）

「刑法38条３項ただし書における『情状』と違法性の錯誤の処理」法政論叢66・67合併号（2017年１月）１－34頁

教育・地域連携等の活動

〔教育〕

担当授業科目

学部共通科目：キャリア・ガイダンス

専門科目：総合講座Ⅱ（法律），刑事法基礎（刑法担当），刑法Ⅰ，刑事政策，刑法演習Ⅱ，公務員対策セミナー

〔地域連携等〕

山形大学オープンキャンパス模擬講義「少年非行･少年犯罪に関する報道はどうあるべきか」（2016年７月30日）

研究・教育活動に関するコメント

前年度同様に諸先生方の協力の下で教育・研究活動に従事することができた。教育活動としては，刑法演習Ⅱにおいて置賜学院への施設見学を行い，少年犯罪の現状や施設運営などの実態についての知識を深めた。研究活動としては，刑事責任論の主要テーマである違法性の錯誤に関する研究に着手し，その成果の一部を公表した。

西上　勝

研究成果（著書）

『杜甫全詩訳注』第二册（共著。講談社，平成28年６月，383～470頁）

研究成果（学会発表）

「中国文人画の「図」と「画」及び「士気」について」（中国詩学研究会，平成28年９月）

教育・地域連携等の活動

［担当授業］

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：共通科目コミュニケーション・スキル２「中国語」

［地域連携］

山形新聞「ことばの杜へ」欄（毎週土曜日掲載）に，のべ六回にわたって寄稿した。

研究・教育活動に関するコメント

平成29年度10月に開催される第五十九回日本中国学会大会について，山形大学小白川キャンパスにおいて開催する旨，10月奈良女子大学で開催された第五十八回大会総会において，開催受諾の旨を大会準備委員会代表として正式に表明した。

西平　直史

研究成果（論文）

西平：リードタイムが変動する在庫管理モデルの安定性解析ースイッチドシステムとしての考察，山形大学人文学部研究年報，第14号，pp.125-130（2017）

教育・地域連携等の活動

学部：経営システム，応用情報処理，経済数学，情報・システム論演習

基盤：観光経営と人間社会

大学院：修士論文の指導

地域連携：山形仙台圏交流研究会

研究・教育活動に関するコメント

教育面では学部ならびに基盤教育の授業を担当した。また，大学院生（９月修了）の修士論文の指導を行った。

研究面では，在庫管理モデルの解析に関する研究ノートを１本公表した。観光ウェブサイトに関する研究のデータも集めて分析を進めた。

藤田　稔

教育・地域連携等の活動

「経済法１」,「経済法２」,「経済法演習」,「専門基礎演習」,「経済法と憲法の人間観を通じて（人間を考える）」と「総合講座１（公共政策）」の１コマ,「総合講座２（法律）」の１コマを担当。(その他，東北学院大学で，非常勤講師を務めた。)

独占禁止政策協力委員として，独占禁止政策のあり方について，公正取引委員会に対して，意見を述べた。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。
日本経済法学会理事として，学会の運営に従事した。
山形県弁護士会綱紀委員会委員として，弁護士倫理の維持に協力した。
山形県立保健医療大学の倫理委員会委員を務めた。
研究・教育活動に関するコメント
独禁法に関して論文を執筆したが，刊行が遅れている。

洪　慈乙

研究成果（著書）
高橋和幸編著『企業会計システムの現状と展望――会計記号論を視野に入れつつ――』，五絃舎，2017年３月発行，「第８章　財務諸表の体系と複式簿記システム」，pp. 124-142。
教育・地域連携等の活動
学部：スタートアップセミナ，会計学，財務会計，会計学演習，ビジネス創業プログラムに参加
地域連携等：「きらやかマネジメントスクール2016」の５回目授業「経営と会計２　企業の健康状態を診断する」担当。

本多　薫

研究成果（論文）
１）本多薫，門間政亮：ナスカ台地におけるラインセンター間の移動距離と負担との関係－歩行時の心拍数を指標として－，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，第13号，p.13-27,2016.
２）本多薫：ワイドディスプレイにおける情報表示に関する基礎的検討－提示文字の記憶再生と表示位置との関係－，山形大学人文学部研究年報，第14号，p.39-49,2017.
研究成果（学会発表）
１）門間政亮，本多薫：ワイドディスプレイにおける情報表示に関する研究－画面の端に意識を向けた場合－，日本人間工学会第57回大会講演集，三重県立看護大学（津市），p.450-451,2016年06月26日
２）本多薫：ワイドディスプレイにおける提示文字の記憶再生と表示位置との関係，日本生理人類学会第74回大会要旨集，和倉温泉観光会館（七尾市），p.56,2016年10月22日
３）本多薫，門間政亮：ナスカ台地のラインセンターの配置－感性の視点方－，第12回日本感性工学会春季大会予稿集，上田安子服飾専門学校（大阪市），p.44_1-2,2017年03月30日
研究成果（その他）
１）本多薫：第２節（第６章）データの活用（p.186-203），ビジネス・キャリア標準テキスト「生産管理 BASIC 級」，渡邉一衛監修，社会保険研究所，平成28年９月30日発刊，ISBN 978-4-7894-9940-8
教育・地域連携等の活動
教育：
授業：（教養）情報処理；（学部）公務員対策セミナー，人間情報科学概論，コンピュータ・

ネットワーク論，基礎講義（地域･人間），人間文化入門総合講義，情報処理演習，情報科学演習，情報科学実習：（大学院）人間情報科学特論Ⅰ，人間情報科学特別演習

卒業研究の指導（人間情報科領域担当として指導）：

（a）Windows のヘルプ機能に関する研究－バージョン７・８・10の比較－

（b）標品イメージとパッケージ上の言葉に関する研究－飲料物を例として

地域貢献活動等：

（a）日本人間工学会 理事（総務担当），東北支部 支部長（～ H28. 6 . まで）

（b）日本人間工学会 代議員

（c）日本経営工学会 東北・北海道支部 支部長

（d）日本経営工学会 代議員

（e）土木学会 地下空間研究委員会心理小委員会 委員

研究・教育活動に関するコメント

平成28年度は，コンピュータ用のワイドディスプレイの情報表示に関する研究を引き続き実施するとともに，ナスカ台地のラインセンター間の移動や配置に関する研究を進めた。また，教育としては，情報科学関連の講義を担当するとともに，共同で卒業研究の指導を行った。

松尾　剛次

研究成果（著書）

１）『家康に天下を獲らせた男　最上義光』柏書房，2016年

２）遊学館ブックス『時をつぐむ若者たち　ともに創る山形の未来』（財）山形県生涯学習文化財団（共著），2016年

３）『中世叡尊教団の全国的展開』法藏館，2017年，

４）韓国語版『破戒と男色の仏教史』エバーグリーン出版，2017年

研究成果（論文）

関東祈祷所再考－禅・律寺に注目して－『日本仏教綜合研究』14号2016年

研究成果（その他）

講演録「日本仏教史上における忍性①～③」第4416～８号，2016年

教育・地域連携等の活動

４名の卒論指導，１名の修論指導を行った。講演「忍性によるハンセン病患者の救済　鎌倉版マザー・テレサ」（奈良国立博物館）講演「忍性伝再考」（金沢文庫）などを行なう。「山形学」講座企画委員，大石田町まち・人・しごと創成有識者会議委員長，山交カルチャー講師，NHK 文化センター仙台講師，寺子屋子ども大学代表（2016年度やまがた公益大賞受賞），都市地域学研究所所長として講演会・公開講座を企画・実施した。

研究・教育活動に関するコメント

研究は４冊の著書を刊行でき大満足であったが，大いに苦労した。教育では講義科目が疲れるようになってきた。寺子屋子ども大学の活動が2016年度やまがた公益大賞を受賞できたのは，2012年以来の努力が報われた感がある。

松本　邦彦

研究成果（著書）

なし

研究成果（論文）

なし

研究成果（学会発表）

なし

研究成果（その他）

なし

教育・地域連携等の活動

○担当授業科目

- 大学院＞プロジェクト演習Ⅱ
- 大学院＞国際政治特論Ⅰ
- 大学院＞国際政治特別演習
- 専門＞日本外交論（演習も）
- 専門＞日本政治論
- 基盤＞基幹＞多民族共生の現実と課題（共生を考える）
- 基盤＞導入＞スタートアップセミナー

○地域連携等

- ひきつづき山本匡毅先生とともに専門教育科目「地域づくり特別演習（二）」を担当し，2016年度前期では受講生５人を３つの市民団体に受け入れていただいたほか，市民団体と学生との交流会では４団体の方に来ていただいた。
- 山形市コミュニティファンド評議委員会の外部委員（学識経験者）を務めた。
- 11月12日，安達峰一郎世界平和弁論大会第６回記念大会の開催に協力。

研究・教育活動に関するコメント

- 学内外の研究者とともに2013年度～2015年度まで取り組んだ科研費プロジェクト（基盤B)「グローバル化時代におけるヒトの移動の自由と管理：社会保障制度を中心に」の報告書（2016年３月末）に論文を掲載できたものの，次につなげる成果の公表にまで至らなかったことを反省している。
- 教育面では，学生自身に自らの先入観に気づかせ，それを修正させていく過程重視のスタイルをとっている。しかし依然として，先生から，あるいは同僚の学生から手っ取り早く知識を得ようと（鵜呑みしようと）している傾向があり，2016年度でもさほどの改善ができなかった。2017年度ではさらに手法を見直したい。

松本　雄一

研究成果（著書）

１.2017 「第15章　ペルー南高地の神殿と権力形成:「周縁」から見た形成期社会」 関雄二編『アンデス文明：神殿から読み取る権力の世界』 pp.403-432，臨川書店。

研究成果（論文）

1. Matsumoto, Yuichi, Jason Nesbitt, Yuri Cavero and Edison Mendoza 2016 Actividades Rituales en Áreas Circundantes al Centro Ceremonial de Campanayuq Rumi, Vilcashuaman, Ayacucho. In Actas del I Congreso Nacional de Arqueología, Volumen II, pp. 99–104. Ministerio de Cultura, Lima.

研究成果（学会発表）

1.「ペルー南海岸ベンティーヤ遺跡の発掘調査」 第21回古代アメリカ学会研究大会，2016年12月３日，於国立民族学博物館。山本睦／坂井正人／ホルヘ・オラーノ（山形大学）と共同発表。

研究成果（その他）

1.（ペルー文化省提出調査報告書）Informe Final del PROYECTO DE INVESTIGACIONES ARQUEOLÓGICAS CAMPANAYUQ RUMI, VILCASHUAMAN, AYACUCHO 2013.（Yuichi Matsumoto, Edison Mendoza Martínez, Yuri Igor Cavero Palomino）. Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2016.

教育・地域連携等の活動

1．講演 「山形大学のナスカ地上絵研究：学際的アプローチの試み」 山形経済同友会総会（2016年５月20日 於 山形グランドホテル）

2．講演 「チャビンからパラカスへ，パラカスからナスカへ：ペルー南海岸パラカス文化研究の原状と課題」 アンデス文明研究会定例講座 （2016年５月21日 於東京外国語大学本郷サテライト５Ｆ）

3．講演 「山形大学のナスカ地上絵研究：学際的アプローチの試み」 」山形県経営活性化女性懇話会講演会 （2016年５月25日 於 ホテルメトロポリタン山形）

4．ペルー，アヤクチョ県ビルカスワマン市より表彰を受ける。「カンパナユック・ルミ神殿における卓越した考古学調査及び，ビルカスワマン地方の先スペイン期の歴史における科学的知見に対する貢献」 （2016年９月１日 於ペルー，アヤクチョ県ビルカスワマン市）

5．講演，「地上絵と社会：ナスカ研究の最前線－近年の山形大学チームの調査成果から－」 東北地区附属学校連盟東北地区研究集会 （2016年10月21日 於 月岡ホテル）

6．山形大学人文学部附属ナスカ研究所主催 国際学術講演会「アンデスとメソアメリカ」（2017年３月28日 於 人文学部１号館301教室）において総合司会と通訳を務めた。

7．山形大学人文学部附属ナスカ研究所主催 国際シンポジウム「Violence, Writing and Frontier in Pre-Columbian America」（2017年３月31日 於キャンパスイノベーションセンター）においてコメンテーターを務めた。

研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては，「アンデス比較文明論」（科学研究費補助金・新学術領域研究）によって，ペルー南部インヘニオ河谷において，踏査を実施した。また，「周縁からみたアンデス文明の形成過程」（科学研究費補助金・若手 A）によって，ペルー南部カンパナユック・ルミ遺跡の発掘調査を行った。調査は大きな成果を挙げたが，データの整理に十分な時間をとることができなかった点は反省材料である。調査の最中に，ペルー，アヤクチョ県ビルカスワマン市よりこれまでの調査に対する表彰を受けたことは非常な光栄であった。講演やシンポジウムの運営などは，例年に比べてエネルギーを割くこととなった。今後しばらくは成果の出版を重視する必要があるだろう。教育

に関しては，学部専門授業において人類学の古典を噛み砕いて開設する講義を行ったことが個人的な新たな試みとして挙げられる。準備しだいによっては難解とされる本，テーマであっても学生の積極的な参加が期待できることが分かったのは収穫であった。

丸山　政己

研究成果（学会発表）

- （口頭発表）「「混在移動」概念と国際組織による人権基盤アプローチ―北アフリカと中東の難民・移民問題をめぐって―」（法律・政治研究会（山形大学）2016年５月25日）
- （口頭発表）「国連安全保障理事会に対する法的コントロール―アカウンタビリティ概念の法的側面に着目して―」（グローバル・ガバナンス学会第４回研究会（早稲田大学）2016年12月10日）
- （口頭発表）「国連安全保障理事会における『補完性原則』の可能性」（第374回東大国際法研究会（東京大学）2017年１月28日）
- （口頭発表）“The NY declaration for refugees and migrants by the UN General Assembly: towards a new international legal framework?”in the University of San Carlos and Yamagata University Joint Research Forum on Migration（University of San Carlos, Philippines, 16 March 2017）

教育・地域連携等の活動

- 担当科目：国際法，国際人権法，国際法演習
  総合講座 I（公共政策），総合講座 II（法律）それぞれ１回分を担当
  （基盤教育）国際法からみた現代国際社会における共生（共生を考える），平和構築について考える（教養セミナー）
- 2016年度人文学部公開講座：リスク社会と危機管理―法律・政治・行政の視点から「リスクとしての国際テロリズム―国際法による対応―」（2016年10月11日）
- 宮城県仙台三桜高校出張講義（2016年10月18日）「国際法って何？－捕鯨問題を通して考えてみよう－」
- 山形県新庄北高校出張講義（2016年10月21日）「テロリズムと国際法」
- 慶応義塾大学法科大学院ゲスト・スピーカー（テーマ研究（EU 憲法），2016年10月27日）「国連安全保障理事会と国際立憲主義―ヨーロッパ憲法秩序への逆照射？―」
- 山辺町安達峰一郎顕彰会出版の書簡集改訂作業への協力（2016年８月19日，12月２日，2017年３月）
- 学内委員：人文学部目標評価委員会（予算施設整備部会，教育方法検討部会，研究活動推進部会），教育ディレクター

研究・教育活動に関するコメント

成果としては口頭発表のみであるが，様々なテーマについて研究を進めることができた。次年度には論文として公刊したい。また，全学の安達峰一郎研究プロジェクトを人文学部で引き継いでいくための予備作業にも携わった。色々な意味で今後数年間かけて取り組むべき課題を見出すことのできた有意義な年であった。

宮腰　直人

研究成果（著書）

編著『〈曾我物語〉の絵画化と文化環境―物語絵・出版・地域社会』（国文学研究資料館）2016年３月

研究成果（論文）

「牛若の地獄極楽遍歴譚試論―『天狗の内裏』の版本系諸本と奥浄瑠璃諸本をめぐって」（「立教大学日本文学」116号，2016年７月）

研究成果（学会発表）

- 「17･18世紀の〈物語草子〉とリテラシー研究 ― デジタル画像データを手がかりにして ― 」（日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 研究集会　新たな古典学としてのリテラシー史研究 ― 多分野融合による可能性を求めて ― ）2016年９月10日　東北大学
- 「 説話とフィクション」（日本フランス語フランス文学会東北支部会シンポジム「フィクション化する世界」） 2016年11月26日　山形大学
- 「戸澤正令と島津家―新庄藩ゆかりの資料から」（隼人文化研究会・鹿児島地域史研究会・斉興の会合同例会　2017年３月12日　鹿児島県歴史研究センター黎明館）

教育・地域連携等の活動

- 公開講座「〈あの世〉をみてきた人びとの話―近世仏教説話における極楽の諸相」山形大学人文学部附属映像文化研究所

2016年６月23日

- 公開講座「東北の義経伝説と奥浄瑠璃―『奥の細道』を出発点にして」山形大学都市・地域学研究所

2016年９月３日

- 公開講座「奈良絵本の世界と米沢本」市立米沢図書館

古典文学講座

2016年10月12日

研究・教育活動に関するコメント

　米沢・置賜と新庄を中心に少しずつ地域の書物文化や芸能文化を明らかにしたいと考えています。

村松　怜

研究成果（学会発表）

「戦前日本における大蔵省主税局の所得税思想－『総合課税主義』の形成」（政治経済学･経済史学会）

教育・地域連携等の活動

担当授業：スタートアップセミナー　経済政策論　日本経済論

出張講義：米沢東高等学校

研究・教育活動に関するコメント

　科研費（若手研究Ｂ）「戦後日本税制の形成過程－日本の租税思想とアメリカ対日占領政策との合流－」の初年度であった。

森岡　卓司

研究成果（著書）

［編著（本文校訂，解題)］『谷崎潤一郎全集』第５巻，中央公論新社，2016年10月

研究成果（論文）

［単著論文］「谷崎潤一郎の描く辻潤」，五味渕典嗣　日高佳紀　編『谷崎潤一郎読本』，217-223,2016年12月

研究成果（学会発表）

［口頭発表　単独　招待］「雑誌『労農』と森英介―地方文化運動の行方」，二〇一六年度第一回日文研「戦後日本文化再考」共同研究会，国内会議，2016年04月，国際日本文化研究センター

［口頭発表　単独　招待］「初期吉本隆明の文芸批評と共同体の理論」，昭和文学会二〇一六年度秋季大会，国内会議，2016年11月，鶴見大学

研究成果（その他）

［書評］「内藤千珠子著『愛国的無関心　「見えない他者」と物語の暴力』」，日本近代文学会『日本近代文学』94，263-266，2016年５月

［会報記事］「大会印象記（第二日目)」，日本比較文学会『日本比較文学会会報』第205号，５-7，2016年08月

［対談］作家はふるさとをどう描いたか（石川忠司,森岡卓司　司会　阿部康子）,平成28年度「山形学」講座「小説にみる山形」第４回，2016年９月24日，山形県立図書館遊学館ホール

［談話記事］「戦時下の新聞報道」，山形新聞社『山形新聞140周年　太平洋戦争　45ヶ月の報道』，96,2016年10月

［シンポジウム司会］シンポジウム「近代都市の相貌―明治山形の写真・映画・建築」，山形大学人文学部附属映像文化研究所，平成28年10月16日，山形大学人文学部

教育・地域連携等の活動

山新文学賞「選考経過」（『山形新聞』，2016年４月－2017年３月まで月１回連載）

研究・教育活動に関するコメント

研究においては，「東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究」（基盤研究（B），2016年04月 ～ 2021年03月）の研究代表者および，研究分担者「占領期ローカルメディアに関する資料調査および総合的考察」（基盤研究（B），2016年04月 ～ 2021年03月）の研究分担者をつとめている。

教育に関しては，10名の卒業論文の正指導教員をつとめた。それぞれに論文執筆にうちこんだが，うち１名は東北大学大学院に進学，３名が中高の国語教員として専門職に就く。また，2015年度に大学院を修了した大学院生の優れた修士論文がティーデマン・ふすま賞を得たことは，本人の真摯な努力のたまものであり，指導教員としてたいそう嬉しかった。

学内業務については昨年度に引き続き目標評価委員に加えて改組 WG の業務に携わった。また，教員免許更新講習を担当した。特別プロジェクトとして継続している朗読コンテストの審査員をつとめた。

安田　均

研究成果（著書）

『生産的労働概念の再検討』（社会評論社 ,2016. 5 ）

研究成果（論文）

「生産的労働概念とその活用」『山形大学人文学部研究年報』No.14（2017. 2 ）

「生産的労働概念の可能性」経済理論学会西南部会（九州大学 ,16. 6 .18),「生産的労働概念の復権」SGCIME 研究合宿（八王子セミナーハウス ,16.08.10),「生産的労働概念の活用」経済理論学会第64回全国大会（福島大学 ,16.10.15）

教育・地域連携等の活動

［教育］（基盤教育）基幹科目，教養セミナー，（専門）経済原論，同演習，市場と組織，（大学院）株式会社論特論 I，株式会社論特別演習，企業経営特別研究 I（その他）東北学院大学，宮城や学院女子大学で各 1 科目担当。三大学合同ゼミへの参加（宮城学院女子大学，7 . 9 , 東北学院大学 , 12. 4 ）。山形中央高校への出張講義（12/14),［地域］山形県と学部との合同研究会山形仙台圏交流研究会の連絡窓口として，1）高瀬紅花祭り（7 .11）に学生とともに参加，2）県から受託した「地域課題解決実践活動モデル事業」の一環として学生とともにフィールドワーク（10.29), 現地成果報告会（17. 2 .12, 2 .22),学部 HP 社会連携ニュースへの随時報告。「経済指標の解説」連合山形『春闘パンフレット』（17. 2 ）

研究・教育活動に関するコメント

教養セミナーの 1 回を生活保護申請窓口（市福祉事務所）での聴き取り調査に当てたところ学生が事前に学趣旨，関心を持って質問していた。専門基礎演習でも同様の機会を持ちたい。専門演習では三大学合同ゼミへの学生参加が芳しくなかった。演習本来のテーマを基本としつつ，検討の視点を多面化し，関心に広がりを持たせるようよう指導したい。

山口　昌樹

研究成果（論文）

受賞

Best paper award at SIBR-Thammasat 2016 Bangkok Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research, June 2nd - 3rd, 2016, Bangkok, Yamaguchi, Masaki, Lending Behavior of Japanese Megabanks in Indonesian Project Finance Market

論文

- Yamaguchi, Masaki, Lending Behavior of Japanese Megabanks in Indonesian Project Finance Market, Review of Integrative Business and Economics Research, 5 （3）, 69-86, 2016
- Yamaguchi, Masaki, Japanese megabanks in the U.K. project finance market, International Review of Research in Emerging Markets and the Global Economy, 2 （3）, 909-924, 2016
- 山口昌樹・柊紫乃・山本匡毅・小森尚子「イノベーション創出のための共同研究拠点の形成と機能－英国シェフィールド大学 AMRC のケース・スタディを通じて－」,『山形大学人文学部研究年報』，第14号，pp.19-38 ,2017年

寄稿

• 山口昌樹「東南アジア経済は有望か－成果を得るための次の一手」『金融ジャーナル』2017年１月号，pp.74-77

書評

• 山口昌樹　前田淳『アメリカ国際資金フローの新潮流』蒼天社出版，『金融経済研究』第39号，pp.99-101

研究成果（学会発表）

学会報告

• Yamaguchi, Masaki, Lending Behavior of Japanese Megabanks in Indonesian Project Finance Market, SIBR-Thammasat 2016 Bangkok Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research, June 2nd - 3rd, 2016, Bangkok
• Yamaguchi, Masaki, Japanese megabanks in the U.K. project finance market, Annual Vietnam Academic Research Conference on Global Business, Economics, Finance & Social Sciences, 7－9 August, 2016, Dai Nam University, Hanoi
• Yamaguchi, Masaki, Japanese megabanks in the U.K. project finance market, 6th Global Business and Finance Research Conference, 27-29 October, 2016, Taipei
• Yamaguchi, Masaki, Japanese Banks in the UK Project Finance Market: Observations through Social Network Analysis, 12th ASIA-PACIFIC Business Research Conference, 27-28 February 2017, Kuala Lumpur

学会座長

• Annual Vietnam Academic Research Conference on Global Business, Economics, Finance & Social Sciences, Session “Finance, accounting & banking”, 7－9 August, 2016, Dai Nam University, Hanoi
• 6th Global Business and Finance Research Conference, Session “Banking, Economics and Finance”, 27-29 October, 2016, Taipei, Taiwan
• 12th Asia-Pacific Business Research Conference, Session “Accounting, Banking and Finance”, 27-28 February, 2017, Kuala Lumpur, Malaysia

研究成果（その他）

• 山口昌樹「巻頭言」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 1
• 山口昌樹「大学発ベンチャー　－成功の鍵」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 1
• 山口昌樹「巻頭言」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 2
• 山口昌樹「巻頭言」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 3
• 山口昌樹「人文・社会科学との連携」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 3
• 山口昌樹「巻頭言」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 4
• 山口昌樹「３つの COI 拠点からの教訓」山形大学 COI 拠点情報配信ニュースレター No. 4

教育・地域連携等の活動

教育

• 担当授業：専門基礎演習，金融論，国際金融論，証券経済論，国際金融論演習，国際金融論特

論，国際金融論特別演習，国際経済法務特別研究

地域貢献

• 出前講義　新庄南高校　「外国為替を学ぼう」2016年10月18日

国際交流

• 論文博士号取得希望者に対する支援事業（日本学術振興会）での指導協力者
論博研究者－カザフスタン経営経済大学 Olga Pak 助教授
予定論文題目－ Bank business models and financial stability in the Eurasian Economic Union's transition economies
2016年８月２日に九州大学にて論文指導
2016年９月24－27日にカザフスタン経営経済大学にて論文指導
• カザフスタン経営経済大学，副学長 David Landis 氏を表敬訪問　2016年９月26日
• カザフスタン経営経済大学にて講演，演題 "Japanese megabanks in the U.K. project finance market"，2016年９月26日

社会連携

• 山口昌樹「社会システム研究委員会」，COI サイトビジットでの報告，2016年６月７日，山形大学工学部
• 「COI シーズ・ニーズ探索」拠点ワークショップ，ゼミ生３名も参加，山形大学工学部，2016年７月11-12日
• Japan Robot Week 2016でのロボットに関する調査，OPERA プロジェクト，東京ビッグサイト，2016年10月19日
• 山口昌樹「社会システム研究」有機材料極限機能創出・社会システム化共創コンソーシアム，全体会議，OPERA プロジェクト，YKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター，2016年10月31日
• 中国国際工業博覧会でのロボットに関する調査，OPEAR プロジェクト，国家会展中心，上海，2016年11月１日
• 研究・イノベーション学会での人文社会科学と自然科学との連携に関する調査，COI プロジェクト，青山学院大学，2016年11月６日
• COI コンセプト打ち合わせ，COI プロジェクト，大日本印刷，東京都市ヶ谷，2016年11月14日
• 柏地域医療連携センターでの地域包括ケアシステムの調査，COI プロジェクト，千葉県柏市，2016年11月29日
• ロードマップ作製に向けた課題リーダーへのヒアリング，OPERA プロジェクト，山形大学工学部，2016年11月30日と2016年12月14日
• COI コンセプト打ち合わせ，COI プロジェクト，山形大学東京サテライト，東京都田町，2016年12月６日
• 山口昌樹「社会システム研究委員会」，COI サイトビジットでの報告，2017年１月６日，山形大学工学部
• OPERA コンセプト打ち合わせ，OPERA プロジェクト，山形大学工学部，2017年１月17日

・広島大学 COI 拠点シンポジウムでの情報収集，COI プロジェクト，サテライトキャンパスひろしま，2017年１月31日
・ OPERA コンセプト打ち合わせ，OPERA プロジェクト，山形大学工学部，2017年２月６日
・東北大学 COI 拠点シンポジウムでの情報収集，COI プロジェクト，日本橋ライフサイエンスハブ，2017年２月８日
・県立釜石病院での地域包括ケアシステムの調査，COI プロジェクト，岩手県釜石市，2017年２月15日
・ OPERA コンセプト打ち合わせ，OPERA プロジェクト，山形大学工学部，2017年２月21日
・名古屋大学 COI 拠点シンポジウムでの情報収集，COI プロジェクト，名古屋大学，2017年２月24日
・山形大学 COI 拠点全体会議での報告，「他拠点の事例紹介」，大日本印刷五反田ビル，2017年３月16日
・ OPERA コンセプト打ち合わせ，OPERA プロジェクト，山形大学工学部，2017年３月23日

研究拠点形成

・ YU-COE（C）「地域価値創成に貢献する University Entrepreneurship 研究拠点」拠点リーダー
・地域通貨についてのヒアリング調査，仙台高等専門学校，2017年１月25日
・学内研究会，山形大学人文学部，2017年２月23日
・地域通貨についてのヒアリング調査，飯豊町役場，2017年３月８日
・地域通貨についてのヒアリング調査，長井市役所，2017年３月10日

研究・教育活動に関するコメント

活動の幅が広がった１年であった。

山崎　彰

研究成果（論文）

「19世紀ブランデンブルクにおける近代村落社会の形成―フリーデルスドルフ村を事例に―（２）」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第18号，2017年３月

研究成果（学会発表）

「ブランデンブルク・レカーン領の低湿地開発と農村近代化－地域社会（領主制と村落）の異種的編成の視点から－」（社会経済史学会全国大会・自由論題報告　北海道大学　2016年６月11日）

教育・地域連携等の活動

・基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目），「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」（教養科目）

・専門教育

「文化動態論基礎」「文化動態論（ヨーロッパ）」「ヨーロッパ史講義（二）」「ヨーロッパ史演習（二）」「ヨーロッパ史英書講読（二）」「卒業論文」

山田　浩久

研究成果（著書）

山田浩久（2016）「温泉地の観光まちづくり」，根田克彦編著，『まちづくりのための中心市街地活性化―イギリスと日本の実証研究―』，103-130，古今書院.

山田浩久編著（2017）『地方観光の広域化に関する現状と今後の方向性』，山形大学人文学部叢書10，総頁111.

研究成果（論文）

山田浩久（2016）「風評被害が地方観光地にもたらすもの―山形市蔵王温泉地区の事例から―」，ほくとう総研 NETT，94,28-32.

研究成果（学会発表）

山田浩久・川尻陽太（2016）「山形県蔵王温泉街の観光動向と今後の展開」，東北地理学会，宮城教育大学.

山田浩久（2016）「地域が大学に求めるもの」, 日本地理学会地域連携活動研究グループ, 東北大学.

山田浩久（2017）「衛星画像に見る石巻市の土地利用変化」，東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会，仙台市 AER21階21Ａ.

山田浩久主宰（2017）日本地理学会研究グループパネル・ディスカッション『東北地方における観光の新機軸』，山形大学

山田浩久（2017）「観光に関する大学の取り組み」，日本地理学会研究グループ，山形大学.

山田浩久（2017）「東日本大震災の被災地における土地利用転換の特徴について―宮城県石巻市を事例にして―」，日本地理学会，筑波大学.

山田浩久（2017）「自治体から大学への委託研究がもたらす効果と課題」，日本地理学会研究グループ，筑波大学.

研究成果（その他）

山田浩久編著（2016）『山形市山寺地区における地域実態調査と地域活性化に関する調査研究報告書』，平成27年度地域課題解決実践活動モデル事業，総頁14.

教育・地域連携等の活動

基盤教育

- 地域の共生，地方創生を考える

学部教育

- 人文地理学概論，地域構造論，地誌学，地域構造論演習，都市地理学調査実習，キャリア・ガイダンス，基礎講義

大学院教育

- 都市計画特論，都市計画特別演習

生涯学習支援等

- 山形市定住自立圏地域計画講習講師

学外の審議会，委員会

- 国土交通省，東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- 山形県版 CCRC（生涯活躍のまち）構想検討委員会委員長

• 山形市中心市街地活性化戦略本部部員
• 山形市都市計画マスタープラン見直しに係る研究会委員
• 山形市にぎわい拠点整備事業審査委員会委員長
• 山辺町総合戦略有識者会議議長
• 川西町生涯活躍のまち基本構想・基本計画策定検討委員会委員長
• 長井市まちづくり基金審査委員会委員

研究・教育活動に関するコメント

COC 事業に参加し，４冊目の研究報告書を発刊することができた。研究面においては，科学研究費の挑戦的萌芽研究に採択され（課題番号：16K13295，研究代表者：山田浩久），衛星画像解析による土地利用変化の把握に関する研究を開始するとともに，日本地理学会で立ち上げた「地域連携活動研究グループ」の集会を２回開催し，山形大学で一般市民向けのパネルディスカッションを主宰した。地域連携に関しては，国土交通省の東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員を務めるほか，山形県の CCRC 構想検討委員会委員長，川西町の生涯活躍のまち基本構想･基本計画策定検討委員会委員長を務め，高齢化社会に対応する活動に参加することができた。

山本　睦

研究成果（論文）

山本　睦

2017「自然環境における神殿の位置づけ」『アンデス文明－神殿から読み取る権力の世界』。関雄二編。臨川書店。pp. 83-108。

研究成果（学会発表）

山本睦，坂井正人，ホルヘ・オラーノ，松本雄一

2016「ペルー南海岸ベンティーヤ遺跡の発掘調査」古代アメリカ学会第21回研究大会。国立民族学博物館。2016年12月３日。

Atsushi Yamamoto

2016 “La dinámica social y paisaje del valle de Huancabamba: Construcciones de los centros ceremoniales e interacciones interregionales”. II Simpocio Internacional Arqueología, Arquitectura y Museos. Auditorio de Colegio Nacional San José. Lambayeque, Perú. 2016年８月８日。

Atsushi Yamamoto, Sakai Masato y Olano Jorge

2016 “Nuevos descubrimientos en el sitio arqueológico La Ventilla”. XXIV Congreso Nacional de Estudiantes de Arqueología. Auditorio del Colegio de Ingenieros, Ica, Perú. 2016年９月７日。

Atsushi Yamamoto y Marina Ramirez

2016 “Excavaciones de los sitios arqueológicos Ingatambo y Yerma”. Cajamarca. Ministerio de Cultura. Lima, Perú. 2016年９月16日。

研究成果（その他）

Yamamoto Atsushi y Marina Ramirez Santillana（報告書）

2016 Informe del Proyecto de Investigación Arqueológica “INGATAMBO”, Valle de Huancabamba, Provincia de Jaén, Departamento de Cajamarca, Perú（Cuarta Temporada）. Ministerio de Cultura, Perú.

教育・地域連携等の活動
山形大学ナスカ研究所において，ペルー人学生へ調査・研究指導をおこなうとともに，ＤＴＰ参加学生にたいして講義とフィールド実習をおこなった。
研究・教育活動に関するコメント
「アンデス比較文明論」（科学研究費補助金・新学術領域研究）によって，ペルー・ナスカ市近郊で調査を実施した。また，「神殿をめぐる活動と地域間交流の相関からみたアンデス文明形成期の社会動態」（科学研究費補助金・若手Ａ）にて，ペルー北部で調査・分析作業をおこなった。

吉井　文美

研究成果（著書）
- 麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治 1919-1941』（みすず書房，2017年）（担当範囲：吉井文美「北樺太石油・石炭利権をめぐる日本とソ連――一九三九年の交渉を中心に」）

研究成果（学会発表）
- 吉井文美「日中戦争時期日本的揚子江封鎖及其国際影響（1937-1941）」第三届抗日戦争史青年学者研討会（中国，南京大学）2016年４月
- 吉井文美「日本の農山村から見る日中戦争・太平洋戦争 -『胡桃澤盛日記』を中心に -」第18回山形大学歴史・地理・人類学研究会（日本，山形大学）2016年６月
- 吉井文美「日本史研究と植民地」日本植民地研究会第24回全国研究大会（日本，立教大学）2016年７月
- 吉井文美「書評 潘洵著 / 徐勇・波多野澄雄監修 / 柳英武訳『重慶大爆撃の研究』」順天時報の会2016年度第３回例会（日本，東京大学）2016年７月
- 吉井文美「中日戦争時期長江封鎖問題述論 - 日本統治華中占領区的実態与国際関係 -」第一届中国近代経済史研討会（中国，中南財経政法大学経済学院）2016年10月

研究成果（その他）
［書評］
- 吉井文美「潘洵著 / 徐勇・波多野澄雄監修 / 柳英武訳『重慶大爆撃の研究』」『日本歴史』826号（2017年）

［新刊紹介］
- 吉井文美「外務省編纂『日本外交文書 昭和期 III』昭和十二～十六年 第三巻 移民問題・雑件，六一書房，二〇一四年」『史学雑誌』125巻９号（2016年）

教育・地域連携等の活動
［担当授業］
- 基盤教育：「日本近代史を知る」，「日本近代史の史料を読む」
- 専門教育：文化動態論（日本），日本史講義（一），日本史演習（一）（前期）（後期），日本史史料講読（一）
- 大学院：日本近代史特別演習

［卒業論文指導］
８名の正指導，１名の副指導

［国際交流］
台湾師範大学における学術交流事業（集中講義「近代日本与植民地」, 同行したTA 学生の発表指導）
［出張講義］
「大学で学ぶ歴史学」東北生活文化大学高等学校（2016年12月）
研究・教育活動に関するコメント
　台湾師範大学において実施した学術交流事業は，外国語で授業を行ったり，海外で学生に研究発表をさせるための指導をしたりするうえで，良い経験になった。しかし，準備のための負担は大きく，卒業論文指導や校務に関して周りの先生方のご助力を頂いたことに，感謝したい。

吉原　元子
研究成果（論文）
「産地の縮小過程における中小企業の戦略と社会的分業の変容ー山形県ニット産地の事例から」『政経論叢』第85巻第５・６号，pp.109-135
研究成果（その他）
【口頭発表】
「縮小産地における中小企業のイノベーションー山形県ニット産地の事例から」IGS オープンゼミ，2016年12月18日，日本大学商学部
教育・地域連携等の活動
【教育】
学部：スタートアップセミナー，中小企業論（前期），中小企業論（後期），中小企業論演習，公務員対策セミナー（論作文）
大学院：中小企業論特論
非常勤：地域産業論，原典講読（以上明治大学），経済地理の諸研究，経済地理の諸問題（以上中央学院大学）
【地域連携等】
- 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査員
- 全国中小企業団体中央会組合資料収集加工事業調査研究委員会委員
- 一般財団法人商工総合研究所中小企業組織活動懸賞レポート審査委員
- 株式会社玉川・オリエンタルコンサルタンツ総合研究所主任研究員
- 山形県議会「産業振興対策特別委員会研修会」講師（2016年６月21日，山形県議会）
- オープンキャンパス模擬講義（2016年７月30日）
- 総務省「強い地域経済の構築に向けたシンポジウム～酒田港を活かした製造業の強化」特別講演（2016年11月14日，東北公益文化大学）
- きらやかマネジメントスクール第３回講師（2016日11月18日，山形大学，山本匡毅先生と）
- 京都府中小企業団体中央会「企業組合制度セミナー」基調講演・コーディネーター（2017年３月９日，ホテルグランヴィア京都）
- ソフトマターロボティクス第１回キックオフシンポジウム「社会システム」報告（2017年３月17日，TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町）

研究・教育活動に関するコメント

着任初年度は諸先生方のご協力のもと教育，研究，社会連携活動に取り組むことができ，感謝したい。また，COC 地域志向教育研究経費を受けて，ゼミ生とともに山形県内中小企業を訪問する機会を得られ，研究の足がかりをつかむことができた。

RYAN, Stephen

研究成果（論文）

2016. 8 Hidden Biases of Cultural Schema. In official conference proceedings of the Sixth Asian Conference on Cultural Studies 2016, (refereed), International Academic Forum (IAFOR), ISSN: 2187-4751, pp. 173-182.

2016. 5 The Era of US President Andrew Jackson (1767-1845). 国際日本文化研究会（IAJS), 山形市 .

研究成果（学会発表）

2016. 6.2 Hidden Biases of Cultural Schema. (refereed) The Sixth Asian Conference on Cultural Studies. International Academic Forum (IAFOR) . Kobe, Japan.

- 基盤教育：英語 R，英語 C
- 学部:英作文（上級）, 英語コミュニケーション（上級），英語コミュニケーション（上級）（前後期）, 言語学総合講義（１コマ）
- 大学院：現代外国語（英語）１（前期），異文化間コミュニケーション論特論Ⅱ（前期）, 異文化間コミュニケーション論特別演習（後期）
- 卒論（英語学）
- 高校訪問

研究・教育活動に関するコメント

Intercultural Communication / Cross-cultural psychology : the affects of hidden cultural biases on communication

渡辺　文生

研究成果（論文）

渡辺文生（2016）「講義の談話においてトピック・センテンス内のメタ言語表現の位置が受講者の理解に与える影響について」『2016 CAJLE Annual Conference Proceedings』pp. 286-292. カナダ日本語教育振興会

研究成果（学会発表）

渡辺文生「講義の談話においてトピック・センテンス内のメタ言語表現の位置が受講者の理解に与える影響について」2016 CAJLE Annual Conference, Niagara Falls, Canada. 2016.08.17-18

Szatrowski, Polly. and Watanabe, Fumio.“What can students and people in the community in the US learn from Japanese tea ceremony?”2017 AATJ Annual Spring Conference, Toronto, Canada. 2017.03.16

教育・地域連携等の活動

担当授業は，言語学総合講義・日本語学文法講義・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語

学演習・日本語（二）《以上学部専門科目》，日本語意味論特論・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》，ことばの分析（言語学）・日本語上級２《以上基盤教育科目》。地域貢献等の活動としては，山形県要約筆記者養成講座講師（2016.07.17），宮城県立角田高等学校での出張講義（2016.10.21），山形北高校の入試説明会（2016.11.25）などを行った。

研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，研究代表者として関わる基盤（Ｃ）の科学研究費プロジェクトの研究を中心に学会発表等を行った。そのほか，２件の科学研究費プロジェクトに研究分担者として従事した。教育活動については，卒業論文主指導教員として日本語学の卒業論文（２名）の指導を行った。

渡辺　将尚

研究成果（学会発表）

ナチズムは「アジア的」行為か―歴史家論争30年，アジアからの再考の試み（日本独文学会2016年度秋季研究発表会，2016年10月22日，於：関西大学